「外国語教育」
1958年 1月号 (1)

スペイン語はこうして覚える

日本イスパニヤ語学会理事
拓殖大学講師　田中辰之助

その昔、移民船でスペイン語を教えた時には、耳に入り易く、口に出し易いものをつくって、口まねをさせながら覚えさせたものである。その一例をあげてみると

コモセ山からカランバ見れば、空穂(カラホ)々々の稲ばかり

といったもので、全く口調を整えるための、もぢった句に過ぎないものであった、が然し何となく「山から野原を見たら、稲の穂が皆からっぽだった」と云うような感じを受けて、移民さん達はすぐに覚えてくれたものである。

そこでこの「コモセ山」とは、スペイン語の？Cómo se llama？（註1参照）をもぢった言葉で、「何という名前ですか」とか「何という名称ですか」と云う意味のスペイン語の発音である。

「カランバ」とは、スペイン語の¡Caramba！（註2参照）で、稲の穂が空っぽなのを見てこりゃ驚いた！」と、事の意外なのに驚いた事を示す時の間投詞である。

これで、名前ま名称をたづねる時のスペイン語¿Cómo se llama？と、事の意外な時に発する¡Caramba！との二つを易々と覚えてしまう訳である。

註 1. 疑問符が¿‥‥？のように文の初めと終りとにあるのが、スペイン語のいいところで、それは、ものを尋ねる時に先づ頭をさげる通り最初の疑問符は¿の形をとり、礼儀の正しいところを示し、それから尋ね終ると頭をあげて？の形をとるといった具合であるからだ。

Cómo という字にアクセントがついているが、このアクセントの符号はスペイン語では非常に大切なものであるから、充分に注意しておいてもらいたい。いづれ詳細な説明は追って致す事にしよう。

註 2. 感嘆符が¡‥‥！のように文の初めと終りとにあるのは、疑問符が¿と前後にあるのと同じ意味あいだと思えばよい。

驚きを表す間投詞には色々あるが、唐がらしをかぢって、「アッ、からい！」と叫んだなら、その「からい！」はそのまま驚きをあらはすスペイン語となって

いるのである。スペイン語では¡Caray！と綴る。

外人が日本へ来て、下駄のカラコロ、カラコロという騒音に驚いて出来た言葉ではあるまいが、このカラコロを複数にしたような「カラコーレス！」はまた同じように驚きを示す言葉である。¡Caracoles(カラコーレス)！とスペイン語では書く。

「カラッポ」（空の瓢）も同じ意義に、男性同志の間では使われもするが、婦人の前や、あらたまった場所では使ってはならない言葉である。注意を要する。

¡Caramba(カランバ)！や¡Caray(カライ)！や¡Caracoles(カラコレース)！は、気軽に会話の合い間に使われる言葉である。わけて¡Caramba(カランバ)！は婦人の口からもよく聞かされる言葉である。

さて、ここで注意して頂きたいことは、スペイン語というものは発音する通りに綴ればよいということである。つまり日本語を横文字で書く時のようにローマ字綴りにすればよいということである。従って読む時にはローマ字綴りだと思って読めばよいということにもなる。

カランバを御覧なさい。Caramba と綴ってある。Caray を見たら、ローマ字を見るつもりで、カライと発音すればよい。そのほかタンゴは Tango、ブエノス・アイレスは Buenos Aires である。

スペイン語は、かように日本人にとって勉強し易い言葉である。英語とは雲泥の差がある。英語ではA一字について見ても、

Cad(カド) weather(ウエザー) の場合、Bad で A は「ア」の音を出し、weather で A は発音されずにいる。

Base(ベイス) ball(ボール) の場合、Base で A は「エイ」の音を出し、ball で A は「オー」の音を出している。

こういった具合に英語のAは奇々怪々な発音の変化をする。それでも英語を勉強した人は別に苦ともしないで覚えて来たのである。そうした頭脳明せきな方々に対して、スペイン語は操が正しいもので、Aはアの音一つだけ、丁度日本語のアはアの音一つだけで他の音に変化しないのと同じである、と説明したなら、何んとスペイン語はやさしいものであるわいと合点されることであろう。

◎即ちスペイン語は一字一音であるということを先づ覚えておいて頂きたい。

そして一字一字が洩れなく発音される。

Buenos Aires(ブエノス アイレス) の字を御覧なさい。Bu-e-nos A-i-res と一字一字が発音されている。英語の Air が「エアー」で「アイル」とは発音していないのと比較してみれば、スペイン語の読み方がよく納得されることであろう。

◎但しHだけは全く発音されないという事を知っておいて頂きたい。

蓋し、世論が「水爆」即ち H Bomb の使用を禁止しようということを、スペイン人は遠い昔に予知して、最初からHの音を抹殺しておいたのかも知れない。賢明な処置であったかも知れないが、世の中の事は総て裏表があるもので、この賢

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。　国立国会図書館　2015年2月3日

ゃべって、単語を覚えれば、それだけでも効果的なものだと言い得る訳ではなかろうか。

処で、単語といえば、英語と同じものが沢山有るから、それを次に並べて勉学の便に供してみよう。但し発音は英語とちがってローマ字読みにしなければいけないことは先刻注意申上げておいた通りである。

◎先づ語尾が al で終るもの

◎そして、語尾が al のように子音で終るものは、その語尾の子音の前の母音を必ず強く発音する事になっている。これがスペイン語のアクセントの位置の規則である。忘れてはいけない。（次の日本文字の平仮名のところを強く発音すること。）

accidental	（突発的の）	animal	（動物）
anual	（年々の）	arsenal	（造船所）
artificial	（人工的な）	brutal	（残酷な）
canal	（運河）	capital	（資本：首都）
carnal	（肉体の）	central	（中央の）
cereal	（穀類の）	ceremonial	（儀式的な）
colonial	（植民の）	comercial	（商業の）
continental	（大陸の）	coral	（珊瑚）
cordial	（親切な）	corral	（庭：肥料場）
credencial	（信認の：信任状）	criminal	（犯罪の）
cristal	（上等の硝子：コップ）	（英語では crystal）	
cultural	（文化の）	decimal	（十進法の）
dental	（歯の）	editorial	（出版の：社説）
electoral	（選挙権の）	elemental	（基本の）
experimental	（経験上の）	facial	（面の）
fatal	（宿命の）	federal	（連邦の）
festival	（祭の）	final	（終りの）
fornal	（正式の，礼儀正しい）	fraternal	（兄弟の）
frugal	（質素な）	fundamental	（基礎的の）
funeral	（葬儀）	general	（一般的な：大将）
gradual	（段階的な）	horizontal	（水平の）（hは無音）
hospital	（病院：愛想のよい）	（hは発音しない）	
ideal	（思想の：理想）	imperial	（帝国の）
industrial	（工業の：産業の）	infernal	（地獄の）
informal	（不真面目の）	instrumental	（器具の）
intelectual	（理智的の）	intestinal	（腸の）

明さは反面にとんだ禍をわれわれ日本人に与えている。というのは、Hに音が無い為め日本語のハヒヘホの綴りようが無い結果をもたらしているのである。ここに一つの悲劇的な笑話があるスペイン語国（スペインや中南米の諸国）のある水夫が上海を「サンガイ」と発音していた為に、相手方と意志が通じないで戸まどってしまったというのである。成る程 Shanghai の綴りの h が無音であったならば、水夫の発音通り、サンガイとなる訳である。Hについては充分注意するよう予め願っておく。スペイン語には発音しないHのついた文字が沢山あるからだ

さて、本来ならばここで当然スペイン語のＡＢＣの読み方に入るべき処であるが、そんな堅苦い事をすると、読者から「よせよ、あほらしい」叱られるかも知れないから、一時お預りとする。という訳は、この読者は既にスペイン語で yo sé, yo ahora sí, と言って、「僕は知っている、僕はもうわかった」と言いそうであるからだ。

即ち、yo は日本語の余とか私という言葉、sé は私は知っているという意味、ahora は日本語の今、sí は英語の yes で、「然り」とか「ハイ」とか「そうだ」とかという言葉で、ahora sí で「もう、わかった」という意味になるのである。従って全体の意味は、「僕は知っているヨ、僕はもうわかったからよせヨ」となるのである。

何んと日本語とスペイン語とはよくも似ているものではないか。事のついでに一つ二つ、日本語とスペイン語の「似より合戦」を御披露に及んでみようか。

日　本　語　芽出度さや菓子とも見える床の鶴。

スペイン語　Me dé taza ; ya casi tomó miel ;
私ニ　呉レ　茶碗ヲ；　モ早ヤ　殆ド　彼ハ食ベチャッタ　蜜ヲ；
toco, no, tul.
私ハ手ヲ触レハ，　シナイ，　薄ギヌニハ

意訳：茶碗を僕にもよこせよ、アイツ奴はも早や殆ど蜜をなめちゃったもの、僕は（かけてある）薄い布にさえも手を触れていないよ。

日　本　語　明ける年のあさぼらけに出たろう灘の酒

スペイン語　Aquel tocino asabora, que ni de tarro
あの　ベーコンでも　味い給え，　なぜなら　さえも　から　壺
nada no saqué.
何ンにも　しない　（酒を）出した（事は）

意訳：（酒は）壺からさえも、少しも出しはしなかったから、あのベーコンでも、味ってくれ給えよ。

こんな「似より合戦」は、こちつけ過ぎると一笑に附したければ、附してもよいが、だがその語呂の合い方には何物かのヒントがあるように見つめて貰いたいものである。そうすることによって、スペイン語は工夫次第で面白く学べるものだという事が会得されようと思うからだ。

更にまた、最初にもいった通り、耳に入り易く、口に出し易い文句を繰返してし

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

方を悩ませるような表現を用いているが、これがいや味にならないのがタンゴの良さかも知れないが、四曲共、糸り唄のものをお聴きにならない方々にもお薦め出来る素晴しい、歴史的な価値のあるレパートリーである。（EM—二〇五）

尚、エンジェル今回の新譜に、既発売のSPの中から好評のものを四十五回転に切り直して次の三枚を発売した。

オスヴァルド・プグリエセの、二人の為に（Para Dos）**エントラドール**（Entrador）（OM—九〇〇八）**ロベルト・フィルポの四重奏団**の演奏で多くの若いファンの血を湧かせた、自作自演の**センチミエント・クリオジョ**（Sentimiento Criollo）アンヘル・ヴィジョルドの古典**街角**（El Esquinazo）（OM—九〇〇九）

フランシスコ・カナロの主宰する五重奏団の演奏で、カナロの旧作**マタサーノ**（Matasano）と、ベントゥラの名曲、**ア・ラ・グラン・ムニェカ**（A La Gran Muñeca）（OM—九〇一〇）

（蟹江丈夫）

ヴェガ

〝デキシーランド・カリプソ〟

十二番街のラグ Twelve street's rag

ムスクラット・ランブル Muskrat Ramble

サウス South

あれは私の恋人さ Yes sir that's my baby

ムスタシュと Moustache et son

彼のデキシーランド・カリプソ Dixieland calypso

パリと云えばシャンソンと思いますが、そのフランス吹込のデイキシーランド・バンドによるカリプソが出ました。

その曲目が又ジャズのスタンダード・ナンバーたる「十二番街のラグ」「ムスクラット・ランブル」「サウス」「あれは私の恋人」というので、はたして如何なるものかと一聴しました。

デキシーとはニューオルリーンズにおける初期時代のジャズですが、そのニューオルリアンズが昔はフランス植民地で、アメリカにおけるフランス文化の大きな拠点となっていた事は有名です。フランスのデイキシーランド・バンドが私たちの懸念を吹とばす程ぴったりしたデイキシーの演奏をするのも無理のないことかも知れません。このカリプソは、ブラスがメロディーをディキシースタイルで演奏し、リズム楽器がマラカス等交え四分の二のカリプソ・リズムを軽快に刻んでおり、いかにもソフトなジャズとカリプソとのカクテルです。ジャズでもカリプソでもやはり演奏者の国民性が色く表現されるものです。何気なく聞ける楽しいレコードで、ムスタシュの演奏によりジャズ・ファンにはカリプソの楽しさをカリプソ・ファンにはジャズの面白さを知っていただきたいものです。（VEGA 一七EV—一八）

（深沢 旬）

日本ビクター 二月新譜はタンゴもラテンものも中休みであり、三月新譜（二月二十日発売）には十二吋LPが予定されて、このオムニバスはポンティエルの「ラ・ラチーラ」他があり期待してよい。

legal（レガール）	（法定の）	liberal（リベラール）	（自由の）
literal（リテラール）	（文字の，直訳の）	local（ロカール）	（地方の：場所）
manual（マヌアール）	（手の：便覧）	material（マテリアール）	（物質的の：原料）
matrimonial（マトリモニアール）	（結婚に関する）	maternal（マテルナール）	（母親の）
medicinal（メディシナール）	（医学の，薬用の）	mental（メンタール）	（精神的の）
metal（メタール）	（金属）	monumental（モヌメンタール）	（記念の）
moral（モラール）	（道徳上の）	mortal（モルタール）	（致命的の）
municipal（ムニシパール）	（市の）	musical（ムシカール）	（音楽の）
natural（ナツラール）	（自然の）	naval（ナバール）	（海軍の）
neutral（ネウトラール）	（中立の，中性の）	normal（ノルマール）	（正規の）
ocasional（オカシオナール）	（偶然の）	oficial（オフィシアール）	（公式の：官公吏）
oral（オラール）	（口述の）	oriental（オリエンタール）	（東洋の：東洋人）
original（オリヒナール）	（本原の：原文）		

（g は a, o u の前ではグの音，e, i の前ではへの音である。従って ge はへ，gi はヒである。いづれ A B C の音を説明する時に改めて解説しよう。）

ornamental（オルナメンタール）	（装飾用の）	patermal（パテルナール）	（父親らしい）
pedal（ペダール）	（ペダル，踏子）	pedestal（ペデスタール）	（台石）
persoanl（ペルソナール）	（一身上の，私用の：人員）	plural（プルラール）	（複数）
portal（ポルタール）	（玄関）	postal（ポスタール）	（郵便の）
principal（プリンシパール）	（主な，主要な）	profesional（プロフェシヨナール）	（職業的な）
provincial（プロビンシアール）	（州の，県の）	provisional（プロビシヨナール）	（臨時の）
racial（ラシアール）	（人種の）	radical（ラヂカール）	（根元の：主体）
regional（レヒオナール）	（地方の）	rival（リバール）	（対手）
sensual（センスアール）	（肉慾の）	sentimental（センチメンタール）	（感傷的の）
social（ソシアール）	（社会の，社交的な）	superficial（スペルフイシアール）	（表面の）
terminal（テルミナール）	（終りの）	total（トタール）	（全体の：総計）
trivial（トリビアール）	（平凡な）	tropical（トロピカール）	（熱帯の）
universal（ユニベルサール）	（一般的の，世界的の）	vestical（ベスチカール）	（垂直の）
visual（ビスカール）	（視力の）	vital（ビタール）	（生命に関する）
vocal（ボカール）	（肉声の，母音の）		

大部単語を並べたが、仮名をたよりに発音の稽古をしてみて頂きたい。綴りは同じでも発音がちがっている点に注意して早くスペイン語になじむようにして貰いたいのである。

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

「時事通信」1958年 2月12日 (2)

スペイン語はこうして覚える

日本イスパニヤ語学会理事
拓殖大学講師 田中辰之助

前講の誤植から先づ訂正して行こう。間違って覚えられたら、それこそ大変だから。

83頁七行目の ?Cómo se llama? の最初の疑問符?は、これを¿のように逆さまにすべきものであったが、この時はまだ註1を見ていない時だったので、間違えたものであろう。必ず¿…? の形にするように注意しなければいけない。

十三行目の「これで、名前ま名称を」は、「ま」を「や」と訂正のこと。

同頁の下から四行目の「疑問符がと前後」は「と」を省くこと。

82 頁の上から三行目の「カラコーレス¡」の感嘆符¡は「!」の形に訂正する。さもないと、「こりゃ何んとしたことだえ!」とスペイン語通から嘲笑されるから。

この「何んとしたことだえ!」という時の感情を言い表はす言葉が、¡Caracoles! や¡Caramba! なのである。

同頁の中頃、即ち二十行目の最初の文字の Cad は Bad の誤植であるという事は既に気がついておられることであろう。

81 頁の九行目の「よせよ、あほらしい」のあとえ「と」をつけ加えること。

80 頁の単語の部の左側、下から九行目の「fornal」は「formal」と、n を mに訂正のこと。

79 頁の単語の部の右側、下から二行目の「vestical」は「vertical」と訂正のこと。

さて、前講では

スペイン語はローマ字綴りである。

スペイン語は一字一音である。

Hは全く発音されない。

語尾が子音で終る言葉は、其の語尾の子音の前の母音のところを強く発音する。そしてこの規則にはづれる時は、特に強音符即ちアクセントの符号をその強く発音する母音の上につける。

ということを説明しておいた。念の為に練習のつもりで、もう一度例をあげて説明しよう。(大文字や平仮名で書いてある所を強く発音する。)

animal は、英語では an'imal (あニマル) と発音するが、スペイン語では、aniMAl (アニまール) と発音する。

hospital は英語では、hos'pital (ほスピタル) であるが、スペイン語では、hospiTAl (オスピたール) である。

かように語尾の子音の前の母音の所を強く発音するのが、正規の発音の仕方で、若しもそうでない場合には、

árbol (あルボル) (立木) とか、lápiz (らピス) (鉛筆) とかというように、特に強音符を母音の上につけるのである。これを怠ると、ミステークとして学校ならば減点される訳で、この点英語とは異るのである。スペイン語というものは、とかく発音し易いように規則づけられている。

次に前講では説明をはぶいて置いたが、文字の発音について其の五つ六つのものを説明しよう。

c は英語と同じように、a, o, u, の前や単独の時には「ク」の音で従って ca (カ)、co (コ)、cu (ク)、となる。そしてこの ca, co, cu, の綴りが純スペイン語型のカ、コ、ク、の綴りで、Ka, Ko, Ku, は舶来語の場合の綴りである。例えば田中を Tanaca と綴るのが純スペイン語型で、事実スペイン語国の連中はそう綴るのである。ただ田中は彼等から見れば舶来人であるから、Tanaka と綴っても大目に見ているだけである。更に英語の Korea (朝鮮) はスペイン語では Corea と綴ることを思えば、其の間の相違が会得されよう。それから、e と i の前では「ス」の音で従って ce (セ)、ci (シ) となる。だがこのセとシは英語の the と thi の発音で、se と si とはちがうのである。それが純粋のスペイン語の発音であるが、中南米では概ね軽やかに se と si と発音している。そこで accidental を発音しようとすれば、アクシデンたールとなる訳である。

f は英語と同じように、上の歯を下唇にあて、「フ」と発音する。

g は a, o, u, の前では「グ」の音で、ga (ガ)、go (ゴ)、gu (グ)、であるが、e と i の前では「ヘ」の音で従って ge (ヘ)、gi (ヒ) となる。この点英語と異っているから注意すること。そこで gradual は「グラヅあール」となり、general は「ヘネらール」となる訳である。

l と r は英語と同じように発音させる。

v は英語とちがって、スペイン語では b と全く同じ発音でよろしい。それならば、言葉を綴る時 b ですか v ですかと尋ねられたならば、b は Burro (ッサギ馬、馬鹿) の (べー) で、v は Vaca (牝牛) の (べー) だと答えるのである。しかれていえば、馬鹿の馬と牝牛のばーカの「ば」とのちがいだと答えるのだ。

z は純粋の発音としては c (e と i の前) と同じく英語の th を発音する時のようにして「ス」と発音すべきであるが、これも中南米に於ては概ね普通の「ス」で素通りさせている。ただ英語とちがって「ズ」と濁音にならないので、日本語にと

著作権法に基づき複製された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

た語尾が母音となっている言葉の強い発音は、規則として何所に在るか？　其の答を次に示そう。

◎言葉の語尾がａやｅやｏのような母音で終っている時は、語尾の母音から数えて二つ目の母音、即ち語尾の母音の前の母音の所を強く発音するというのが規則なのである。

従って前刻ｂとｖとの説明の際に出した Burro（ぶッロ）や Vaca（ばーカ）では、burro は語尾のｏから数えて二つ目の母音の所即ち bu の所、vaca は語尾のａの前の母音の所即ち va の所を夫々強く発音すべしという訳になるのである。また caracoles の場合は、語尾のｓを度外視するので、ｓの前のｅの所を強く発音するのではなく、其のｅを語尾と見做して、それから二つ目の母音の所即ち co の所を強く発音するのである。従ってカラこーレスという発音になる訳合である。

◎此の規則から脱線する場合には、強く発音される所の母音の上に、特に強音符即ちアクセントの符号をつけなければいけない。

強音符をつけることを忘れると、反則として学校では減点される。注意！注意！¡cuidado（クイだード）！

脱線の一例は Salmón である。この言葉の語尾のｎが度外視されるので、語尾はｏと見なされることになる。従って規則的には sa の所を強く発音すべきではあるが、この言葉は実際的には「サルもン」と、語尾と見做されるｏの所を強く発音するので、其のｏの上に強音符をつけて規則を守っているのである。

其の他の三、四の例を挙げて見よう。

ácido（あシド）（酸）、ají（ァひー）（唐辛）、bárbaro（ばルバロ）（蛮的な）
página（ぱヒナ）（頁）、pájaro（ぱハロ）（小鳥）、

ここで、ｊの発音についての説明が必要となってきた。何故ならば aji が「ァひー」と発音し、pájaro が「ぱハロ」と発音して、英語のｊとは似ても似つかぬ発音となっているからである。

ｊは喉の奥の方から、かすれた声のようにして出す音を以て、母音のa, e, i, o, u, と結んで、ja（ハ）, je（ヘ）, ji（ヒ）, jo（ホ）, ju（フ）, と発音するのであるが、これはこんな説明だけでは一寸理解しにくいであろうから、機会を求めてスペイン語を知っている人について実際に発音の教授を受ける方がよい。本講の勉学者で若しも希望される方があって、在京しておられるならば、本雑誌の編集部迄申込まれたく、さすれば及ばずながら筆者がよろこんで其の任に当りましよう。

偖て、気のついた人はいざ知らず、気のつかない人の為に、言葉というものも、所変れば品変るという諺からのがれられないものだという事を次に示して、言葉の使用には十二分の注意を払うよう注意を喚起しておきたい。これは決して悪意を含んで例に挙げるものではない。筆者がスペイン語国人と、子供のような無邪気な気分で笑話にした例に過ぎない事なのであるから其のつもりで読んで貰いたい。それ

っては、ザジズゼゾの綴りようがない結果となっている。

本来ならば、こうしたＡＢＣの文字の発音については、一番最初に一つ一つ順を追うて説明してゆくのが従来の型式であるが、発音というものは文字では到底表現し得ないものもあるので、本講では初学者の便をはかって先づローマ字綴りになった言葉を並べ、其の読み方になじむのを見計っては順次説明してゆこうとするのである。要は覚えることにあるのだから、在来の型にとらわれずに、たのしく解り易い方法にのっとってゆくこととする次第である。予め勉学者諸士の諒承を乞うて置く。ではスペイン語の単語を早く豊富に覚えて貰ったり、読み方に早くなじんで貰ったりする為に、英語と同一の単語を続けて次に示して見よう。これも語尾が子音で終っている単語であるから前述した通り語尾の前の母音の所、即ち振り仮名の平仮名の所を強く発音するのである。

actor（アクとール）	（役者；執行者）	ardor（アルどール）	（情熱；高熱）
candor（カンどール）	（純真；淡白さ）	censor（センそール）	（図書検閲官）
color（コろール）	（色）	conductor（コンヅクとール）	（指導者；伝導体）
director（ディレクとール）	（指揮者；重役）	doctor（どクとール）	（医者；博士）
editor（エディとール）	（出版者；編集者）	error（エろール）	（誤り；過失）
exterior（エクステリおール）	（外部の；外面）	favor（ファばール）	（恩恵；好意）
fervor（フェルばール）	（熱烈；熱情）	furor（フろール）	（激情；熱狂）
honor（オのール）	（名誉；光栄）	horror（オろール）	（恐怖；嫌悪）
humor（うもール）	（気分；諧謔）	inferior（インフェリおール）	（下級の；劣等の）
inspector（インスペクとール）	（検査官；監督者）	instructor（インスツルクとール）	（教育家）
interior（インテリおール）	（内部の；内部）	motor（モとール）	（モーター；発動機）
pastor（パストとール）	（牧人；牧師）	protector（プロテクとール）	（保護者；保護器）
reflector（レフレクとール）	（反射器；反射鏡）	rumor（るもール）	（評判；噂）
sector（セクとール）	（扇形）	superior（スペリおール）	（上級の；上等の）
tenor（テのール）	（趣意；テナー）	tractor（ツラクとール）	（トラクター；牽引車）
tumor（つもール）	（できもの）	tutor（ツとール）	（家庭教師；後見人）
valor（バろール）	（価値；勇気）	vapor（バぽール）	（蒸気）
vigor（びごール）	（気力；精力）		

◎ここで一つ注意する問題がある。それはｎとｓとは子音ではあるが、語尾に存在するｎとｓとは、発音上では、ｎは自ら「イ（居）ヌ＝不在」と言っており、ｓは「エスケープ＝逃避している」と言っているので、何等の影響力を持っていないということである。即ち発音上、不問に付してもよいということである。

然らば、salmon（サルもン）（鮭）や caracoles（カラこーレス）のような言葉の語尾のｎやｓを不問に付するとすれば、語尾として見られるものはｏとｅということになってしまう。こうし

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。　国立国会図書館　2015年2月3日

は Aji no moto と云う言葉である。これをスペイン語の言葉とすれば、「唐辛は境界標ではない」とか「唐辛は道標ではない」とかという風に解されるし、また中米にゆけば、「唐辛は孤児ではない」という意味にもなるのである。とんだ味気ない意味となるが、笑話とすれば味のある種子だ。序に、もう一つ二つ例を挙げておこう。日本語の「馬場」と云う姓名だが、Baba はスペイン語では「よだれ」を意味する。従って「私は馬場です」と名乗って出たら、スペイン語国の人は、本人の手前、笑う訳にもゆかず、眼を白黒させて、たぢたぢすることであろう。従ってこの姓名の人は、スペイン語の国えゆく時には、別製の名前の名刺を特に用意する方が賢明であろう。次に、日本人はよく「アノ、ネ」と言い出すが、「アノ」はスペイン語では肛門と云う意味であるから、これも注意する必要がある。こんな例は挙げればまだ沢山あるが、いづれ機会を見ては序々に示してゆくことにしよう。

それではまた勉強にもどって、次に英語と同じ綴りのスペイン語を列挙するから、単語を覚えると共に、発音の稽古をして貰う。

言葉の終りが「ble」で終るもの：

アダプたーブレ
adaptable
（適合し得る；採用し得る）
アドラーブレ
adorable（崇拝すべき；敬慕すべき）
コンパらーブレ
comparable(比較し得る；匹敵する)
デプロらーブレ
deplorable(なげかわしい；みじめな)
ゾらーブレ
durable（耐久力のある；継続する）
ファボらーブレ
favorable（好都合の；有利な）
オノらーブレ
honorable（尊敬すべき；名誉ある）
インペネツらーブレ
impenetrable
（不可入の；はいりこめない）
インプロばーブレ
improbable
（ありそうもない；信じ難い）
インカルクらーブレ
incalculable(数えきれない；無数の)
インクらーブレ
incurable
（不治の；救いがたい）
インエビたーブレ
inevitable（さけられない；必至の）
インイミたーブレ
inimitable(まねの出来ない；独特の)
インセパらーブレ
inseparable（分離出来ない）
イントレらーブレ
intolerable
（がまんの出来ない；受け難い）
イレボかーブレ
irrevocable
（取消せない；改変できない）
ラメンたーブレ
lamentable（悲しむべき；みじめな）

アドミらーブレ
admirable
（賞讃すべき；あっぱれな）
かーブレ
cable（鋼索；海外電報）
クらーブレ
curable（治療し得る）
デテスたーブレ
detestable（嫌悪すべき）
エクスプリかーブレ
explicable（説明のできる）
フォルミだーブレ
formidable（恐るべき；巨大の）
イマヒなーブレ
imaginable（想像出来る）
インプレグなーブレ
impregunable
（はらむ；容れる）
インアルテらーブレ
inalterable
（変更出来ない；不変の）
インコンパらーブレ
incomparable（無比の；無類の）
インエステまーブレ
inestimable
（量り知れない；評価し難い）
インエクスプリかーブレ
inexplicable（説明できない）

インテルミなーブレ
interminable（はてしない）
イレパらーブレ
irreparable
（修繕出来ない）
イリたーブレ
irritable（短気な）

ラウだーブレ
laudable（称讃に価する）

ミせらーブレ
miserable(あわれな；みすぼらしい)
ノたーブレ
notable（顕著な；有名な）
プロばーブレ
probable(有り得べき；確からしい)
トレらーブレ
tolerable（がまんの出来る）
ベネらーブレ
venerable（尊敬すべき；りっぱな）

のーブレ
noble（気高い；高貴の）
プレセンたーブレ
presentable(体裁のよい；紹介できる)
ソシあーブレ
sociable（社交的な；親しみ易い）
バリあーブレ
variable（変り易い；一定しない）
ブルネらーブレ
vulnerable（傷つけられ易い）

（本講座の勉学者で、質疑等をただし度い方は、編集部え御申込みになれば、担当者と直接応答出来るようお取り計います。）

サンケイ・スペイン語講座のお知らせ……。

東京・産経会館内の産経学園では、来る四月から三カ月間二回（夜間）のスペイン語講座を新たに開設することとなった。講師は本誌でおなじみの植田龍夫氏である。スペイン語のＡＢＣから始めて、一通りの訳読まで、手ほどきされる。詳細は次号で……。

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

「中南米音楽」1958年3月号 (3)

スペイン語はこうして覚える

日本イスパニヤ語学会理事
拓殖大学講師 田中辰之助

本講義は、学習者諸士がローマ字綴りは読みこなせるものとの前提の下に筆を進めている訳で、従って学習の第一歩を、ローマ字綴りであるスペイン語の単語——それも早く単語を数多く覚えて貰う為に、英語と同語同意義のものを選んでこれを列挙し、そしてその読み方の練習からまづスペイン語になぢんで貰うと試みた訳である。

処で単語の音読、即ち発音の際——つまり会話や歌う際——にはその単語のどの文字の所を強く発音するかという事、即ちアクセントの位置を知るという事が必要で、もしもこのアクセントの位置を間違えてしまうと、その単語の意味が違って表れてしまうことがあるから大変なのだ。この事は日本語にも見られる事で、例えば「アシ」の発音で、もしも「あシ」と最初の「あ」を強く発音すると、「芦」となり、「アし」と「し」を強く発音すると「足」となってしまう。この通りにスペイン語でも「パパ」を「パぱー」(Papá) とあとの「ぱ」を強く発音すれば「父」となり、「ぱーパ」(Papa) と初めの「ぱ」を強く発音すれば「芋」となって、発音次第で「おやぢが芋になったり、芋がおやぢにばけたりする」のである。その為にアクセントの位置については断片的に説明しておいたが、更に為念に此所にまとめて説明しておこう。幸な事にスペイン語には、アクセントの位置を明確にする一定の規則が存在しているのである。即ち

◎単語の語尾が子音（但しnとsとを除く）やyであれば、その子音やyの前の母音の所に強音即ちアクセントがあり、

◎単語の語尾がnかsで終っておれば、その前の母音を語尾と見做し、そして次の規則に従う、

◎単語の語尾が母音で終っておれば、終りから二番目の母音にアクセントがある、

◎以上の規則にはづれる場合には、強く発音される個所の母音の上に必ず強音符即ちアクセントの符号をつける。

というのである。

そこで次の歌での例を見ることにしょう。

Bèsame, bésame mucho において Bésame を見れば、その語尾は母音の「e」で終って居るから、終りから二番目の母音「a」の所にアクセントがあって「sa」を強く発音すべきかのように思われるのであるが、事実はこの言葉は Besa（キッスして頂戴）という単語と、me（私に）という単語とのくっつき合った言葉なのである。従って Besa は規則通りに語尾 a から二番目の e にアクセントを持って居って be の所を強く発音するようになっているのである。所がこれえ me という単語がつなぎ合って Bésame となり、「e」は語尾から三番目の母音に転位してしまった。そこで「e」の上にアクセントの符号をつけて be を強く発音するようにと注意を呼んでいる訳合なのである。Mucho は規則通りに語尾の母音 o から二番目の母音 u の所に強音があって「むーチョ」という発音になっている。此の語尾の o を削れば英語の much となり、意義も英語の much と同じなのである。

スペイン語は情熱の言葉だというが、その発音には歯切れのよさを失ってはいけない。どんな情熱でもだらだらした発音でいい寄られたらツンザリしてしまうぢゃないか。歯切れのよさがスペイン語をして耳に美しく聞こえさせる所以である。それがスペイン語の生命だ。そのつもりでレコードをかけてスペイン語の歌を聴いてご覧なさい。一語一語が歯切れよく発音されながらリズムとなって流れているのを偖るから。

偖てスペイン語の単語を覚え且つ発音し得るようになったとしたらば、その単語を構成している文字、即ち ABC 個々の音読を知らずにいては済まされない。そこでスペイン語のイロハたる Abecedario（または Alfabeto ともいう）をこれから説明しょう。

大文字	小文字	名前	発音	解説
A	a	アー	ア	（母音）
B	b	ベー	ブ	ba, be, bi, bo, bu bla, ble, bli, blo, blu bra, bre, bri, bro, bru
C	c	セー		舌を英語のthを発音する時のようにして「セー」と発音するのが純スペイン式であるが、中南米ではそれ程迄厳格ではない
			ク	a, o, u, または子音の前、或は語尾の時 ca, co, cu, cla, cle, cli, clo, clu

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

				（英語と同じように、舌の先を上の歯ぐきにつけて発音する）
Ll	ll	エリェ	リェ	リャ リェ リィ リョ リュ lla, lle, lli, llo, llu
M	m	エメ	ム	マ メ ミ モ ム ma, me, mi, mo, mu
N	n	エネ	ン	ナ ネ ニ ノ ヌ na, ne, ni, no, nu
Ñ	ñ	エニェ	ン	ニャ ニェ ニィ ニョ ニュ ña, ñe, ñi, ño, ñu （猫の鳴声をまねる時のように鼻にかけて発音する）
O	o	オー	オ	（母音）
P	p	ペー	プ	パ ペ ピ ポ プ pa, pe, pi, po, pu プラ プレ プリ プロ プル pla, ple, pli, plo, plu プラ プレ プリ プロ プル pra, pre, pri, pro, pru,
Q	q	クー	ク	此の子音は必ず ue かまたは ui とくっついて現われ、 ケ キ que, qui, 即ち ke, ki と同じ発音となる、
R	r	エレ	ル	ラ レ リ ロ ル ra, re, ri, ro, ru （注意：Rが語頭にある時、または l, n, s の後にある時は、巻き舌でたんかをきる時のように強く発音する）
R	rr	エルレ	ル	（Rを巻き舌で発音する） ラ レ リ ロ ル rra, rre, rri, rro, rru
S	s	エセ	ス	サ セ シ ソ ス sa, se, si, so, su
T	t	テー	ト	タ テ ティ ト ツ ta, te, ti, to, tu ツラ ツレ ツリ ツロ ツル tra, tre, tri, tro, tru
U	u	ウー	ウ	（母音）（弱母音）
V	v	ベー	ブ	Bと同音である バ ベ ビ ボ ブ va, ve, vi, vo, vu
W	w	ドーブレベー または ベードーブレ	ウ	外来語の語頭だけに用いられている
X	x	エキス	クス	クサ クセ クシ クソ クス xa, xe, xi, xo, xu
			ス	子音の前、特に t や p の前に来る時、

				クラ クレ クリ クロ クル cra, cre, cri, cro, cru
			ス	e, i の前にある時 セ シ ce, ci
Ch	ch	チェー	チ	チャ チェ チィ チョ チュ cha, che, chi, cho, chu
D	d	デー デ	ド	ダ デ ディ ド ヅ da, de, di, do, du ドラ ドレ ドリ ドロ ドル dra, dre, dri, dro, dru
E	e	エー	エ	（母音）
F	f	エフェ	フ	英語と同じように、上の歯を下唇にあて「フ」と発音する。 ファ フェ フィ フォ フ fa, fe, fi, fo, fu フラ フレ フリ フロ フル fla, fle, fli, flo, flu フラ フレ フリ フロ フル fra, fre, fri, fro, fru
G	g	ヘー	グ	（舌の後部を上あごえ寄せて出す音） a, o, u, または ue, や ui の前や子音の前にある時、 ガ ゴ グ ゲ ギ ga, go, gu, gue, gui ンゲェ ンギィ （güe, güi）（「ン」があるような気持だけで、「ン」は発音しないこと） グラ グレ グリ グロ グル gla, gle, gli glo glu グラ グレ グリ グロ グル gra, gre, gri, gro, gru
			ヘ	e i の前にある時 ヘ ヒ ge, gi
H	h	アーチェ	無音	全然発音しない ア エ イ オ ウ ha, he, hi, ho, hu
I	i	イー	イ	（母音）（弱母音）
J	j	ホータ	フとホの間の音	いびきをかく時の音のように喉から強く出す ハ ヘ ヒ ホ フ（のどから出す） ja, je, ji, jo, ju
K	k	カー	ク	カ ケ キ コ ク ka, ke, ki, ko, ku （Kは外来語と共に輸入された文字である）
L	l	エレ	ル	ラ レ リ ロ ル la, le, li, lo, lu

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

マサトランの夜（カンシオン・ベヒネ）
No Ches de Mazatlán
大学スービー Suby Universitario
美しい空 Cielito Lindo
エストレリータ Estrellita
エル・ラスカペターテ（サパテアード）
El Rascapetate

〔B面〕
ラ・バンバ La Bamba
祈り（ボレロ・ルンバ）
Ruega por Nosotros
グリン・アイズ（ボレロ）Green Eyes
ラ・マラゲニヤ（ウアバンゴ）
La Malaguena
今もいつでも Ahora y Siempre
メキシカン・ハット・ダンス
El Jarabe Tapatio

これ丈ポピュラーな曲を集め美しく演奏しているレコードが発売されたことは、たとえムード的なものが感じられても嬉しいかぎり

最初はあまりにもポピュラーな名曲「アマポーラ」「ベドロ・ガアルガスの歌でお馴染の「マサトランの夜」をコーラスを入れて、プラードの「大学スービー」はソフトなタッチ軽快に。メキシコ民謡「美しい空」はマリンバとコーラスという行き方です。ポンセの作ったこれまた有名な「エストレリータ」はギター・マリンバ・クラリネットで甘くやわらかに表現され、すぐ後に続く軽快なサパテアード「エル・ラスカペターテ」と対照的です

古くから伝わる美しいメロディ「ラ・バンバ」ではトランペットがメキシコ的な甘さを良く出した奏法をきかせています。

フェンテスの「祈り」T・メンデスの「グリーン・アイズ」に続いて、これまた近頃盛に取上げられている「ラ・マラゲニヤ」モラレスの「今もいつでも」最後は「メキシカン・ハット・ダンス」という名で知られ、ラテン物のレビューに欠くことのできないメキシコ古謡「ハラベ・タパティオ」で飾られています。

いかにもポピュラーな曲ばかりで食い足りない方もありましょうが、曲は名曲ぞろい、演奏も良くメキシコのカラーを出してをり、現在望めるのはまあこんな所ではないでしょうか。

これならば喫茶店等にはもってこいですし誰にでも楽しめ一寸したメキシコ気分にひたれます。こういうレコードでラテン・ミュージックのPRを大にしてもらい、一人でも多くのファンを獲得してオリジナル物を日本でも発売可能にしたいと思います。

（深沢　旬）

ディスク評

◇

バック・ナンバーのご注文は直接編集部にお申込み下さい。
一九五六年度分までは一部六〇円（送料共）
一九五七年度以降は一部百円（送料共）

◇

やさしいスペイン語

Y	y	イー グリエーガ	イ	ヤ　ユエ　ヨ　ユ ya, ye, —— yo, yu
Z	z	セータ	ス	英語の th と同じ発音の仕方による、但し中南米では左程でもない。 サ　セ　シ　ソ　ス za, ze, zi, zo, zu

上記の通りスペイン語のイロハは三十文字で、ch, ll, ñ, rr の四つが英語より多く、そして rr には大文字がないことを知っておいて貰いたい。

BÖSENDORFER
ヤマハ・マツモト
SCHWESTER
BELTON
内外
中古品各種
東和ピアノ
渋谷区上通り一の四
TEL (40) 1807　青山六丁目電停前

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。国立国会図書館 2015年2月3日

「中国学音楽」1958年 5月号(4)

スペイン語はこうして覚える

日本イスパニヤ語学会理事
拓殖大学講師 田中辰之助

スペイン語のイロハたる Abecedario（アベセだーリオ）を説明した欄内に、（母音）という文字のほかにＩとＵとには更に（弱母音）という文字を附け加えておいたが、それは何故かという理由をここに説明せねばなるまい。

スペイン語のイロハ三十文字の内Ａ，Ｅ，Ｉ，Ｏ，Ｕの五文字が所謂母音と称さるるもので、その他の文字が子音と呼ばれるものである位のことは今更説明に及ぶ程のことでもあるまい。只この五つの母音の内ＡとＥとＯとは夫々常に強く独立した性格の持主として取扱はれるものであるが、ＩとＵとはそれがたまたまその強いＡやＥや或はＯと並んで用いられた時には、一人前の独立した母音としては取扱われないで、Ａ，Ｅ，Ｏの何れかと結合したまま附随的の姿となって一つの母音と見做されてしまうのである。更にまたＩとＵとが並んで用いられた場合には、この二つの結合したものを以って一つの母音と見做して取扱うのである。かかるが故にこのＩとＵとは母音としても極めて、か弱い性格の持主であるという観点から称して弱母音というのである。このことは発音上にも、音節の切り方（Silabeo（シラベオ））の上にも大きな影響を与えるものであるから特に注意する必要がある。

例えば、Abecedario（アベセだーリオ）の字に於てその綴の終りの "io" を一つの母音（これを二重母音と称する）と見做すが故に発音上規則通りに "da" の所に強い音があらわれ、また Silabeo（シラベーオ）の綴に於てはその終りの方の e と o とが強い母音同志であるから、終りの o から二つ目の "be" の所に強い発音があらわれているようなものである。尚ほ二重母音、三重母音という項に於て詳しい説明を行うことにしよう。

処でＩとＵと雖も、若しも強音符即ちアクセントの符号を持っていれば、話は別でそれは既に弱母音の姿でない事を示しているのであるから、当然強母音としての取扱を受けなければならない。例えば Abecedario（アベセだーリオ）の綴りに於ては、その終りの "rio" が弱母音の i と強音の o と並んでいるので io を一つと見做し、従って強い音はその二つ目前の "da" の所にあって Abecedario（アベセだーリオ）と発音すべきだということは前述した通りであるが、川という字の Rio（りーオ）の場合のように、i が強音符を持っていって自ら強いのだと表明している場合には Rio（りーオ）と i を強母音格に取扱わねばならないのである。

偖てそれでは一般の文法書に書かれているようにＡＢＣの順に従って、その文字が組立てている単語を少しづつ並べて綴りや発音や意味の勉強に進むことにしよう。

Ala（あーラ）——発音としては語尾の母音から数えて二つ目前即ち語頭のＡを強く発音する。

意味は、翼、翅、帽子のつば、鼻の両側の小鼻、建造物の両翼、喋番の両翼、といった具合に両側に等しい形で出張った物を指していうのである。従って飛行機の翼でも、大きな鳥の翼でも、喋々や蜻蛉（トンボ）の翅でも、開き戸の両側の扉でも、或は中折帽子のつばへりでも Ala というのである。

それはこの Ala の綴りを <l> のように、ｌの両側にＡを横倒しにしておいて見れば、この字の意味が一層はっきりと解することが出来る。文字を覚える為にこんないたづら、否な工夫をして見ることも一つの便法であろう。勉学者諸士にして若しも共鳴して下さるならば、序にもう一つ別な工夫の仕方をお眼にかけよう。

Ojo（おッホ）という字は眼という字であるが、この Ojo を楕円形の中において御覧なさい、(°j°) のようにちゃんと眼だということを教えて呉れる。

工夫の仕方は絵図ばかりではない。初講でも述べたように語呂で行くことも亦た有効な便法である。例えば次の場合に、

Casita（かしーた）——家	（貸した家の）
Banana（ばなーナ）——バナナ	（バナナやバナナ）
Asa（あーサ）——取っ手（柄）	（朝、取って）
Mango（まンゴ）——マンゴ：取っ手（柄）	（マンゴも取っても）
Hasta（あスタ）——迄	（明日迄）（アシタ）
Taberna（たベールナ）——居酒屋	（喰べるな居酒屋）
Vaca（ばーカ）——雌牛	（馬鹿みるし）

右側の括弧内に書いた文句を上からづっと棒読みにして、そして左側のスペイン語の読み方と日本語の意味とを続けて見ると成る程面白い語呂つながりになるということが合点されよう。

そこで Casita（かしーた）とは Casa（かーサ）（家）という字を愛称的にいう場合とか、或は事実上小柄な建物の家をいう場合とかに用いられる。

Banana（ばなーナ）はバナナで、バナナの樹は Banano（ばなーノ）という。更に一般的にはバナナを Plátano（プらツタノ）ともいっている。バナナ畑は Bananera（バナねーラ）, Platanal（プラタなール）或は Platanar（プラタなール）で、南米のコロンビアでは Platanera（プラタねーラ）ともいっている。

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

SEMI 全国支部連絡先メモ

★札幌市南二条東一丁目　上村　猛
函館市高砂町一一六　上村　要
★青森市長嶋三七　小山武志
盛岡市新庄田中一六　西洞雄一
仙台市東一番丁　三立楽器店
秋田市川口新町　谷沢茂男
★新潟市寄居町六九七　石川博海
★長野市北石堂町　トーチク内　赤羽定雄
★松本市伊勢町三丁目　大和田民雄
★横須賀市倉吉町一の七三　永島久由
★名古屋市北区大杉町五の七八　西村敬
★金沢市下百々女木町三七　加藤都喜男
★岐阜市早田一一七九　上野善一
★京都市下京区珠数屋町烏丸東入る　熊谷和典
★大阪府寝屋川市郡八七八　井上潤
★姫路市下手野五二　赤松
★岡山市北方大和町二七二　難波輝雅
津山市堺町　リド内
★福山市深津町　双人社書店内　富永保夫
★下関市貴船本町九二三　田中尊家
★宇和島市寄松　ラジオ南海内　北島一也
★門司市栄町五丁目　浅川衛
★福岡市春吉七番丁　森田慎介
★宮崎市恵比須町
結成準備中――松山市、横浜市

★印は毎月定期コンサートを催しています。コンサートに出席ご希望の方は直接最寄の支部連絡先にお申込み下さい。

やさしいスペイン語

Asa（アーサ）は耳の形のように彎曲した取っ手で、例えば土瓶の柄とか、如露の取っ手とかいった形の物を指していう時に用うる。

Mango（マンゴ）は果物のマンゴの意味でもあり、また鋤や鍬の柄のように真直ぐな形をした取っ手を指していう時にも用いられる。従ってペン軸等もこの部に入ると知って貰い度い。

Hasta（アスタ）の Hは発音しないということは既に説明済みである。迄という意味は時間的にも距離的にも同様に使用されるのである。

Vaca（バーカ）は雌牛で、雄牛は Buey（去勢した雄牛）、と Toro（闘牛に使はれるようなたくましい雄牛との二つがある。

横浜産経学園

スペイン語教室開設 ＝六月開始＝

中南米各国への貿易、企業進出の増大と共に各方面で、中南米諸国の事情研究に並んでスペイン語習得の希望者が激増してまいりました。

スペイン語は非常に美しい言葉と、世界でたたえられていますが、日本人には発音も構成も入り易く、従って誰でも上達の早い言葉です。

当学園では長く南米に滞在された良師を得て、六月からスペイン語の初等講座を開くことになりました。ABCから訳読と会話練習を行って、六ヵ月で一通りスペイン語を修得することができます。希望者には六ヵ月修業証書を出します。

御関係各位の多数の御参加をお待ちいたします。

記

▽講習期間　六ヵ月　第一期生　六月～十一月　火曜日　午後六時～八時（第一日は六月三日）
▽講　師　東京商工会議所　スペイン語講師　植田龍夫氏　杉原繁夫氏
▽教　材　日本中南米社　プリントによる（実費百五十円）
▽講習料　六ヵ月分　四千円　（申込金　五百円）
▽申込み　所定の用紙に記入の上、申込金と講習料を添えて申込んで下さい。
定員になり次第締切ります。

横浜市西区南幸町一の八相鉄文化会館三階
横浜産経学園
電話（4）七四六一―二

学園長　村岡花子
理事長　前田久吉

後援　産経時事

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

「中国朱音楽」1958年8月号 (5)

スペイン語はこうして覚える

日本イスパニヤ語学会理事
拓殖大学講師　田中辰之助

——訂正，前講の川という字の Rio は i に強音符のついた Río（リーオ）であるべきものと御諒承下さい。

次に Ala（あーラ）は両側に等しい形で出張った物に対する言葉で，したがって「開き戸の両側の扉」も云々とあった部分を「折りたたみ戸の扉」と御訂正願います。

因（チナミ）に，入口や窓の明けしめする戸ならば，Alas（あーラス）といわずに Hojas（おーハス）というのが普通だと御承知下さい。

偖て「あーラ」の発音を「アらー」即ち Alá（アらー）のように発音すると回教徒の神アラーのこととなるし，また l と r とを混同して Ara（あーラ）と発音すれば，いけにえを供える聖壇の意味となるから，発音は充分に注意して下さい。この発音という事については，文字を音読しながら正確に舌や唇の働きをならすので Araña（アらーニャ）（蜘蛛）苦もない事のようであってその実，実際問題の場面では，とんでもない誤解の種子を蒔くことがあるものだと心得ておいて貰いたい。

発音の練習は Solamente（そラめンテ）（たった）una（うナ）（一）vez（ベス）（度）だけにとどめてはいけない。況んや Una vez（うーナ ベス）（一度）y（で）nada más（なダ マッス）（それ以上はしない）であっては尚ほ更いけない。Tanto（たント）（沢山）tanto（たント）（沢山）に練習しなければならないものである。

次に発音練習用の単語を三四並べて見よう；

alma（あルマ）（魂，霊）：　arma（あルマ）（武器，兵器）：
bala（ばーラ）（弾丸梱包）：　vara（ばーラ）（細い枝：通俗的には布地等の長さを計る時の単位で，約83センチ半，即ち二尺八寸位の長さ）
pala（ぱーラ）（シャベル）：　para（ぱーラ）（‥‥のために）：
calda（かルダ）（熱すること）：　carda（かルダ）（櫛等ですくこと）：
carcajada（カルカはーダ）（高笑い））：　carcaj hada（カルかッフ あーダ）（carcaj は矢を入れるえびら；hada は仙女とか妖精の意）
cabal（かばール）（正確な）：　cavar（かばール）（すき起す，掘り返す）：

SEMI TUSIN

大阪支部

八月定期レコード・コンサートは八月二十四日（日）午後一時半より、東区南本町四丁目のグリル、船場にて行った。

第一部は久方振りに希望曲のコンサートとして、コルレーニの「エル・アディオス」オチョロの「ジャペジュ」サルガンの「ア・フエゴ・レント」等々を鑑賞した。第二部は、珍しく持寄りコンサートとして、会員有志が好きな曲とか珍しいものとかを戦後発売されたレコードの中から一曲を選んで発表、それに対して自分の考えをのべると云う形式で行った。この日は女性二人を交えて、十六人が発表、好評だった。第三部は新しいレコードとして、マデルナ、ホセ・サラ、ルベン・ソサ、モラン、ロトウンド、ロドリゲスに次いで、Aトロイロの「ロケ・ベンドウラ」で八月例会の幕を閉じた。解説は杉本栄男

連絡先　大阪府豊島川市香里八七八　熊谷和典方

新潟支部

九月は六日に開催、残暑きびしいむし暑い晩でした。今回のタンゴプロは、担当者星孝明氏好みのばりばりしたものばかりでやはりこういったものは好評です。バレラの「ラ・カトレーラ」「ラ・バジャンカ」ビリンチョの「ラ・トランペーラ」「カナロ・エン・パリ」ウンバレリーの「オテルビクトリア」等、又、トウッチの「ミ・ブエノス・アイレス・ケレード」コルチアの「ソディオス・ムチャチョス」終ってのアンコール曲は、「ラ・トランペーラ」でした。

ラテンものは、ティト・ギサルとマリアッチの「結婚はごめんだよ」「かわいい燕」「ラ・マラゲーニャ」「お前は浮気もの」と、ソノラ・マタンセーラで「キエンセラ」「アイ・コシータ・リンダ」他「ラ・マラゲーニャ」「キエン・セラ」「アイ・コシータ・リンダ」が好評でした

担当者福田昇一、会場は県立新潟図書館映写室次回第百十七回コンサートは十月四日です。担当は、伊南、星、福田の三氏。

連絡先　新潟市上所島一一三四　菅野方

福山支部

七月例会（アルゼンチン独立記念日特集）

出席者七〇名の下にアルゼンチン国歌で始り

最後に会員有志のタンゴ、フォルクロリカ、フラメンコ演奏で十時半終了。

八月は十四日ボルテニヤ、前田美知子、高山正彦先生一行が尾道に来演（福山から汽車で三十分）福山同好者が大挙（三十数名）おしかけて最前列に並んでのバンドネ

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

ン語では形容詞に mente を附加して副詞を作成する。

という規則に基いたもので，いづれ其の詳細は後述するが，この形は英語に於て形容詞え ly を附加して副詞を作るという方式と同一なのである。従ってスペイン語の mente は英語の ly に等しいものと覚えればよい。

次に発音上よく練習せねばならぬ単語を並べて見よう。

エヘクッちーボ
ejecutivo　（性急な：実行の）
エフェクちーボ
efectivo　（効果的な）
ペルフェクちーボ
perfectivo　（完成させる）
エヘクッたール
ejecutar　（実行する，遂行する）
エフェクッあール
efectuar　（行う：実現する）
アレグらール
arreglar　（整える，調整する）
アセグッらール
asegurar　（しっかりと留める：保証する：確かめる）

余りいぢめると perrengue（ペれンゲ）（怒りっぽい人怒りっぽいと直きにあから顔になるところから，通俗的には，その顔色に関連して黒人のことをも指してこの字を用いる）の方もおられるだろうから，ここいらで merengue（メれンゲ）（カステラ菓子）でも出してお茶（té）としようか。

南米では午後の三時から四時頃にかけて，お茶を飲む慣習があるが，これをonce（おンセ）（十一）と俗称する。その由来は労働者達がこの時刻に一と息入れようとして，気つけ酒に強い酒，即ち aguardiente（アグアルぢェンテ）を飲む。それで旦那衆の前で酒をひっかけようとはいえないので，aguardiente の字数が丁度十一ある処から，体裁よく十一を取ろうといったことに基因するといはれている。

偖て doce（おンセ）（十一）が済んだら，doce（どーセ）（十二）ついでのことだから，もう少し勉強を続けて貰いましょう。

単語の中には取扱い方によって意味が異ってしまうものがあるから，それも心得ておかねばならない。

単数を複数にすると語意が変るもの，例；

単数		複数	
せーロ celo	（熱心）	せーロス celos	（嫉妬）
エスプレシょン expresión	（表情）	エスプレシょネス expresiones	（挨拶の言葉）
れンテ lente	（レンズ）	れンテス lentes	（眼鏡）
れスト resto	（残り）	れストス restos	（遺骸）
びェン bien	（善）	びェネス bienes	（財産）

このほかにもまだ々々あるがEの部としてはこれ位にしておこう。

一見複数にするような形に同一単語を重ねて発音し，そしてそれえ馬や鹿のような「四足のけだもの」という単語の res（レス）を附け加えると，「うましか」が「ばか」

かーサ
casa　（家，うち）：　かーサ caza　（狩猟）：

次に綴りは英語と同じで発音だけ注意するものでは，

アルぱーカ
alpaca（アルパカ～南米のペルーやボリビアのアンデス山中に棲む動物の名で，その毛で織った物が所謂アルパカ地である）

ばさール
bazar　（バザー：市）：　カなール canal　（運河）：
カルなール
carnal　（肉体の）：　カンたーダ cantada　（音楽のカンターダ）：
ファたール
fatal　（宿命の）：　なばール naval　（海軍の）：
ぱンパ
pampa　（草原，パンパ）：　ぱぱーヤ papaya　（パパイヤ～果物）：

等がある。

続いて E を母体とする単語の練習に入ろう；

えッへ
eje　（心棒，軸：シャフト）：　へッフェ jefe　（かしら，長）：
ペへ
peje（魚：やつ～人に対して軽侮的にいう）：
へーベ
jebe（明礬：コロンビア，エクアドール及ペルーでは弾性ゴム）：
えーベ
Hebe（青春の女神～ギリシャ神話，Hércules の妻となった女神）：
ふェーベ
Febe　（月の女神～神話）：　せーベ sebe　（柵，垣根）：
せーデ
sede　（王座：本部）：　へンテ gente　（人々，連中）：
アへンテ
agente　（代理人）：　レへンテ regete　（摂政）：
れンテ
relente　（夜気，夜露）：
レペンテ
repente（突発～de repente＝突如として）：
レペれンテ
repelente　（嫌悪の）：　へれンテ gerente　（支配人）：
ぺれーレ
pelele　（でくのぼう）：　ぺれーテ pelete　（一文なしの男）：
ぺてーテ
petete　（婦人用パンツ）：　ペテれーテス petereetes　（甘いもの）：
ペレてーロ
peletero　（毛皮の商人）：　ペロてーラ pelotera　{（主に女達の）口論}：
ベルへール ベルへール
vergel, verjel　（植込み，庭）：　ベルげール verguer　（警吏）：
ペンでール
vender　（売る）：　ペンでール pender　（ぶら下っている）：
プレンでール
prender　（捕える，つかむ）：　テンでール tender　（広げる，張る）：
デペンでール
depender　（離す，放つ）：　デスペンでール despender　（浪費する）：
デスプレンでル
desprender　（従属する：たよる）：　デセンでール descender　（下がる）：
デフェンでール
defender　（守る，防ぐ）：　エステンでール extender　（拡張する）：
プレテンでール
pretender　（望む：つとめる）：　アテンでール atender　（もてなす：世話する）：

並べればまだ々沢山あるが，この辺で一寸趣向を変えて，

ベエめンテ
vehemente（はげしい，熱烈な）（形容詞）
ベエめンテめンテ
vehementemente（はげしく，熱烈に）（副詞）

の単語を見よう。最初の vehemente（ベエめンテ）は形容詞で，後の vehementemente（ベエめンテめンテ）と mente（めンテ）がもう一つ加はっていると副詞だと括弧内に注意がきがしてある。これは，スペイ

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。　国立国会図書館　2015年2月3日

アルガスの唄の間に奏される、アタディアのバリアシオン。さて歌手は、「港町の夜鶯」と呼称されているヴァルガスである。これが又素晴しい、このダゴスティノ＝ヴァルガス・ラインは、トロイロ＝リベロ、ディ・サルリ＝ルフィノ・ラインに劣らぬ、歴史的価値があると思う。このコンビのもので他に、「ロンダンド・ツウ・エスキーナ」、「ラ・カレータ」があるが、私など一聴してカックンとなってしまった。

「ロス・マレアドス」、「ソイ・ムチャーチョ・デラ・グアルディア」

アニバル・トロイロ楽団
（RCAビクトル）
唄　**フィオレンティノ**

この時代のトロイロの演奏は、現代のものに比較するとびっくりする位の違いがある。一寸ダリエンソの鋭さを無くしたようなバイラブレなものであるが、さすがにトロイロ一流の重厚さがうかがえる、どちらも落ちついた地味な演奏であるが、コピアンの「ロス・マレアドス」は、まず決定盤的な名演ではないかと思う。唄のフィオレンティノは、至極あっさり歌っているようであって、何か他の歌手に求められない、いなせな感じがプンプン臭うようである。こういう歌は、今後は求められぬのではなかろうか、「ソイ・ムチャーチョ・デ・ラ・グアルディア」も良い演奏である。

最近よくディ・サルリとつき合っているエクトル・マルコと歌手のアグスティン・イルスタの作品だが我国には少くとも未知である。この曲でもフィオレンティノの特徴のある歌が楽しめる。この時代のトロイロ…ピアノが素晴しいが、バツソだろうか？　他にトロイロのものでは矢張りビクトルでマリノと組んだものが数枚ある。モレスの「ウノ」、マンシの「フルタ・アマルガ」「デス・プエス」等……。TK時代の「コントラ・ティエンポ」、カサールの歌で「プエノス・アイレス」の名演もある。これもプグリエセと同じく全体を通して聴くと面白い…マリノと組んだ頃には、スタイルに若干の変化が見られる。現代のトロイロの歌手。等を聴くにつけて考えさせられるのは、トロイロの持っていた過去の歌手の素晴しい事である。フィオレンティノ、フロレアル・ルイス、アルベルト・マリノ、エドムンド・リベロ、ホルヘ・カサール、ラウル・ベロン……皆、第一級の歌手である。トロイロこそブエノス・アイレス一のカントール・メイカーかも知れない。

「カミニート」「エル・アディオス」

イグナシオ・コルシーニ（オデオンSP）

「エポカ・デ・オロ」時代を飾った名歌手コルシーニの名演二曲である。決して上手い唄とも思えぬが現代に求められぬ、素朴な歌いまわしは、聴く者をぐいぐい三十年前のブエノスに引き戻す。

「カミニート」の飾り気のない唄は好感がもてるが何と云っても「エル・アディオス」は素晴しい、マルーハ・パチェコ・ウエルゴという女性が作った曲だけにキメの細い実に美しいものである。こういうメロディこそ現代が見失っているものではなかろうか、ギタラの伴奏に乗って歌うコルシーニを聴くとき、人一倍センチメンタルな私は眼頭があつくなる。エンジェルがこれなど出せるものだけにせめて、コルシーニの一、二曲でも紹介して欲しいと思う。

（未完）

と変るように語意が馬鹿々々しく変ってしまうものの例；

Che（チェ）（おい，あのね～アルゼンチン方面でよく使はれる言葉）。此の che を重ねて発音し，それえ res を加えて chécheres（ちぇちぇレス）とすれば，がらくた物という意味になってしまう。

Fe（フェ）（信念：信づる：信仰）。こんな大切な意義を持つ単語もこれを重ねて発音しそれえ res を添えると féferes（ふぇふぇレス）となり，意味は前者と同じように，がらくた物と変ってしまう。一寸驚くぢゃないか。

｜Je（へッ），je（へッ），je（へッ）！（笑い声），そんなに驚くにもあたるまい。馬や鹿のような四つ足と連れ添う程馬鹿なんだから，その真そこはがらくただったかも知れないて。

偖て本講では未だ説明していないが，スペイン語には言葉自体に，性別つまり男女の性別が備って居るのである。このことは日本語や英語には見られないので，初学者には一寸異様に考えられるかも知れないが，よく々々胸に手をあて，熟思して見れば，森羅万象何一つとして陰陽即ち男女雌雄の性を備えていないものは無い事に気がつく。人間は素より，動物や昆虫や草花の植物やの生物には立派に性別が備っているし，電気のような無機物でも陰陽の極別が存すればこそ，あの力をあらわすことが出来るのだ。して見れば人間の尊い思想や意志を表示する大切な言語に性別が無くして何としよう。これを持たない言語は畢竟未完成な幼稚な言語だというべきであろうか。スペイン語の単語は皆夫々即ち男か女かの性を持って居るのである。その単語の性については何れ後述するのであるが，今はただスペイン語には男性，女性のほかに更に中性というような性別が有るという事を承知しておいて貰い度い。

但し文法的にいう性は Género（ヘネロ）という文字を使い，巷間で我々がいう性は sexo（せクソ）という文字を使うのである。なお文法上の性別と通俗的な性別との文字の使い別けを次に示しておこう；

	文法上		一般的
男性	Género（ヘネロ） masculino	：	Sexo（せクソ） fuerte（強い性），macho（まーチョ）（おす），hombre（おンブレ），varón（バろン）（男）
女性	Genero（ヘネロ） femenino（フェメにーノ）	：	Sexo（せクソ） dèbil（でビル）（弱い性），Sexo（せクソ） bello（ベッリョ）（美しい性），hembra（えンブラ）（雌），mujer（ムヘール）（女）

元来此の género（ヘネロ）という単語には色々の意味があって，

文法上では，性；商品的には，織物；一般的には，種類とか種属とかの意味に用いられている。こうした具合に単語によっては用法上色々な異った意味に用いられるものがあるから，成るべく辞書を開いて何べんでも繰り返しその意味を見るように習慣づける事をお薦めする。偖てスペイン語の単語は男性と女性とに性別されているといったが，中には時として男性に用いられ，時としては女性に用いられるものがあることも知っておいて貰い度い。

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。　国立国会図書館　2015年2月3日

スペイン語はこうして覚える

日本イスパニヤ語学会理事
拓殖大学講師　田中辰之助

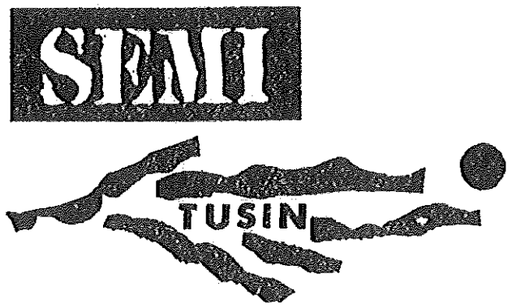
訂正――前講81頁の中ほどの regete（レヘンテ）は，regente（レヘンテ）（摂政）の n が脱落しており，それから下え五行目の petereetes（ペテれーテス）（お菓子）は e が重複しており peteretes（ペテれーテス）であるべきにつき，それぞれそのように御訂正を乞う。更にまた80頁の「偖て doce（おンセ）が済んだら‥‥」の doce はドーセ急いでの語槇だらう，何しろ振り仮名の音声では doce（おンセ）の綴となり得ないのだから，きっと once（ワンス）more（モーア）（これは英語の「もう一度」）の訂正が行われる事だろうと嘲っていられる方もあろうと思うが正にその通り，once（おンセ）（英語流にワンスなどとむずかしい発音はしないこと，スペイン語は総てローマ字風にすなをに「おンセ」と発音すればいい。考えてもごらんなさい。同じ綴の once を英語流にひねくれたワンスなぞと発音すれば，「一度」とか「一回」とかの意味となってしまうが，スペイン語風に温性（おンセ）と温い気持で発音してやれば，「十一」と云う大量の意味となる。実に英と西とでは十の開きを持っているのだから要心，要心。呵々。

さて前講で，スペイン語の単語（但し動詞や副詞等は勿論埒外（らちがい））は男性か女性かにそれぞれ性別されるものだとちょっと触れておいたがそれを，も少し具体的に説明する為に一二の例を次に掲げてみよう。

padre（ぱードレ）（父親），papá（パぱー）（おとうさん）‥‥男性
madre（まードレ）（母親），mamá（ママー）（おかあさま）‥‥女性

と云う風に，その実質的観点から padre（父）を男性の単語とし，madre（母）を女性の単語であるとする。この性別のしかたに対しては誰しも不審や異議はさしはさまないであろう。

次の単語の綴の語尾を見て，丁度日本語の男と云う綴がローマ字で otoko と "o" で終ることから判断して（勿論解説上に便法な私論ではあるが），単語の綴が "o" で終れば，その単語は男性であるとし，また同じように日本語の女と云うローマ字綴が onna と "a" で終る処から推して，"a" で終る文字の単語は女性とするといった性別の仕方である。



＝新潟支部＝

第一一七回のコンサートを十月四日県立図書館で開催、当夜突然来港された、東京フォルクローレ部の吉野氏の持参のレコードで素晴しい三十分を加えての二時間でした。

第一部は、担当ナカヨネ・ナンベイ〃明るい調べ〃と題して、ロス・パラガヨス、ロス・パンチョス、ペドロ・ヴァルガス、ブラード、タワー・アイランダースで「エスペラメ・エン・エル・シエロ」「平原に生きる男」「パラガイの空の下」「ロカンポ第一番」等。

第二部は、担当、伊南秋男〃タンゲーラに魅せられて〃ダリエンソ、ディ・サルリ、プグリエセ、ノロ・モラレス、フランチーニ・ポンティエル等曲目は、「カナロ・エン・バリ」「大きな人形」「緑の島」「タンゲーラ」他。

第三部は、担当は星孝明〃秋色〃カナロ、オクテート・ブエノス・アイレス、モーレス、ラシアッティ、フランチーニ・ポンティエル、ディ・サルリで「レティン・ティン」「イタリーへの手紙」「テマ・オトニアール」「ラ・カレシータ」「ムルガ・デ・ビベス」他。

第四部は、東京の吉野氏解説でホルヘ・ネグレテ、ラファエル・ムニョス、ポビー・カポ、ペレス・プラード等の「マラゲーニャ」「エスペラメ・エン・エル・シエロ」他四曲でした。

終って幹部の連中と吉野氏を囲んでしばし雑談を交し色々、東京の情況を聞き、楽しくすごしました。次回は十一月一日に開催。

連絡先　新潟市上所島一一三四　菅野方
福田昇一

＝静岡支部＝

四月以来、結成準備を進めておりました静岡支部も、この九月に正式に発足致しました。第一回コンサートは、九月二十日、県民会館会議室を使用致し、木村喜久弌氏提供の新盤（プグリエセ七集）などを中心に、タンゴ二〇曲、ラテン一〇曲にのぼるプログラムにて第一声をあげました。

折柄、連休前の土曜日と、静岡地方に流行致しております郵便物集配サボタージュのとばっちりで、連絡が悪かったせいか、平常の約半数の出席者しかありませんで、少し淋しかったのですが、熱心なファンは、遙々、掛川、島田、清水の各地から、来場致しました。コンサート終了後も、女性一〇名を交えた一群となって、近所の喫茶店へ参り二次会ならぬ二次コンサートと

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

コムニスタ
comunista　（共産主義者），
エコノみスタ
economista　（経済学者），
ギクりスタ
guitarrista　（ギキー演奏家），
マテリアりスタ
materialista　（物質主義者），
ナツラりスタ
naturalista　（自然主義者），
オクりスタ
oculista　（眼科医），
オプチみスタ
optimista　（楽天主義者），
パシふィスタ
pacifista　（平和主義者），
ピアにスタ
pianista　（ピアノ弾奏家），
プヒりスタ
pugilista　（拳斗家），
ソシアりスタ
socialista　（社会主義者），
ツりスタ
turista　（観光客，ツーリスト），

デンてィスタ
dentista　（歯科医），
エバンへりスタ
evangelista　（福音伝導者），
イデアりスタ
idealista　（理想家），
モデルにスタ
modernista　（近代主義者），
ノベりスタ
novelista　（小説家），
オポルツにスタ
oportunista　（ご都合主義者），
オルガにスタ
organista　（オルガン演奏家），
ペシみスタ
Pesimista　（悲観主義者），
プブりしスタ
publicista　（国際法学者：新聞人），
レセルびスタ
reservista　（予後備兵），
テレグラふィスタ
teregrafista　（電信手），
ビオりにスタ
violinista　（バイオリン奏者），

此のほかに英語の cyclist はスペイン語で シクりスタ ciclista（自転車等に乗る人：競輪選手）となるようなものもある。

以上の単語は何れも語尾が "a" で終っているけれども，男の人に対しても，女の人に対しても用いられる単語である。

更に レンテ lente（レンズ）と云うように，男性と見てもよいし，女性と見てもよいと云うような単語もある。まあボツボツ勉強して行くことにしよう。要は出来るだけ数多く単語を覚えること，それからその発音を精々練習することである。筆者の方では勉学者が楽に覚えられる方法を断えず工夫している訳で，従ってしかつめらしい文法第一主義的な行き方をしていない次第である。

BOSENDORFER
ヤマハ・マツモト
SCHWESTER BELTON
中古品内外各種　東　和　ピ　ア　ノ
渋谷区上通り1の4　青山6丁目電停前　TEL (40) 1807

例えば，自分や他人の「子供」と云う言葉に対して，スペイン語では イホ hijo と イハ hija との二つの単語を使用するが，

イホ hijo は "o" で終るから，男性で即ち「むすこ」とか「せがれ」の意味であり，

イハ hija は "a" で終るから，女性で終って「むすめ」の意味であるとする具合である。

なお例えば，エルまーノ hermano と エルまーナ hermana とに於て，

エルまーノ hermano は男性で，従って「兄弟」

エルまーナ hermana は女性で，従って「姉妹」

と云った調子である。

勿論，この性別の仕方に対しての例外もるし，また綴りの終りが "o" や "a" でないものもある。それ等の説明については，いづれ後日詳しい解説を行う筈である。

それからまた前講で，中には時として男性に用いられ，時としては女性に用いられるものもあると述べたが，その例としては，e を母体とする単語では フれンテ frente や ペンでえンテ pendiente がある。

フれンテ frente，男性に用いると‥‥前面，正面，を意味し，
　　女性に用いると‥‥額（ひたい）を意味する。

なる程，前面に立ち向う者は男性であらねばならないし，「富士びたい」などといって ひたい 額の美を語るのは女性に属する事柄であるから，この性別は誠に合理的に出来あがっている。処が ペンでえンテ pendiente の方はこれとは対蹠的に妙な性別となっている。即ち

ペンでえンテ pendiente，男性に用いると‥‥耳飾り，イヤリングの意味となり，
　　女性に用いると‥‥坂，勾配の意味となる。

耳飾を男性の単語として取扱い，坂勾配を女性の単語として取扱うのはちと腑に落ち難い性別だと感ぜられる，が然し物も考えようで若しも，蕃人の姿を連想すれば，耳飾の男性扱も不思議ではなく，坂や勾配が女性的におだやかであって欲しいとの願望から出たものとすれば，女性単語としての取扱も不合理ではない。とに角スペイン語は外国語なんだから色々詮議だてする必要はないのであるが，筆者が特にこんなことを言うのは，読者が少しでも刺激を受けて記憶に便益を得られればよかろうとのおこがましい老婆心からである。よろしくご御諒察を乞う。

事のついでに，もう一つ，同一単語が男女両性に用いられるものを示しておこう。それは英語の単語で -ist で終るもので，この -ist に -ista と "a" をつけ加えてやれば立派なスペイン語になる単語である。本稿の勉学者は幸い英語に堪能な方と拝察するので，次に少々列挙して見よう。

アルてィスタ
artista　（芸能家），
かピタりスタ
capitalista　（資本家），

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。国立国会図書館 2015年2月3日

「中南米音楽」1958年12月号 (7)

スペイン語はこうして覚える

日本イスパニヤ語学会理事
拓殖大学講師　田中辰之助

次に母音の「I」は「イ」という音だけに発音され，そして弱い母音として取扱れるものだということは既に説明した通りである。(弱母音の詳しい説明は別に後述する。) 処でこの「i」は弱い母音であるが為に兎角よろめき勝ちなのであろうか，単語の頭に頂くとその単語の意味を逆転させて反対の意味にしてしまう場合があるから注意を要する。けだし「イ」なる音は「意」，「異」，「違」といった正逆両面の対蹠的文字によって書きあらわすことが出来るので，そうした現象が起るのかも知れない。理屈はともかくとして今その実例を三つ四つ次に示して見よう。

legal (法律上の，合法的の，真正な)。この形容詞の頭に「i」を着けると，ilegal 即ち「異レガール」となって意味は (不法な，違法な) と云う逆転したものとなる。同様に，legitimo (正しい，正当な，合法的な)，は ilegitimo (不正な非合法的な) と対蹠的な意味となる。

折角 (読みとれる) legible と云う単語も「i」が前にたつと，ilegible 即ち (判読し難い) と云うことになる。更に lustrador (靴磨きの男) も一寸「i」を頭に頂けば，ilustrador 即ち (絵図を画く人) と出世するのである。

こんなことは必ず (規則的な，正規の，普通の) regular かといえば，そう云う訳ではない。即ち (不規則な，不正規な) irregular なことで，「i」が所謂「接頭辞」(Prefijo) として用いられた場合の出来事なのである。つまり limitado (限られた，わづかの，有限の) 事で，ilimitado (果てしない，無限の) 事ではないのである。

処で regular に「i」を着ける際に，何故 irregular と「irre-」のように「r」を「rr」にするかと疑うならば，それは発音上の関係で，語頭にある「r」は「rr」即ち巻き舌の強い「r」で発音するものだと云う規則があるから「rr」にするのだとお答する。その例は，

racional (道理のある) に「i」を着ける時には irracional (道理のわからない，理性のない，不合理な) と「rr」にするとか，そのほか，razonable (至当な，

合理的な) が，irrazonable (理屈に合わない，不合理な) とし，real (現実の，真実の) が irreal (非現実的な) とされ，recuperable (回復しうる，取り戻し得る) が irrecuperable (回復し得ない，取戻し出来ない) とするようなものである。

このことは本誌読者のように音楽に興味を持たるる方には，発音上大切な事柄であるから充分に注意して頂きたい。

☆すべて語頭にある「r」は巻き舌の強い「r」で発音されるべきものであるから，「r」ではじまる単語に他の語を合成させる時には必ず「rr」としなければ，いけないのである。

例えば，reglamenrario (規定の，法規上の) と anti (反対，対抗，敵対を意味する接頭辞) とを合成させる時には antirreglamentario (法規に反する) とし，religioso (宗教の：信心深い) と anti とを合成させる時には antirreligioso (反宗教的な) とし，refringente (屈折させる) と云う形容詞に，bi (二，両，複，双，重，などを意味する接頭辞) を附加する時には birrefringente (複屈折の) と「rr」にしなければいけないような訳なのである。その他 rector (院長，学長) に vice(副，次，代理などを意味する接頭辞)を附加する時に Vicerrector (副院長，副校長，副学長) としたり，rayo (光線，雷光，稲妻，雷槌) と para (近接，近似，保護，止めるなどを意味する接頭辞) とを合成させる時に，para rrayos (避雷針) としなければいけないのなども同じ訳によるのである。

序に接頭辞 (prefijo) の説明をしておこう。それは覚えた単語にこの接頭辞をつけることによって，より多くの単語を覚える事が出来ると云う便宜があるからだ。次に接頭辞の主なものをあげてみると，

a (非，不，などを表す)。
moral (道徳の。道徳的な)—amoral (不道徳な)
normal (正常な，標準の，規定の)—anormal (異常の，変態の)

a (語頭につけて動詞を作る)。
ira (怒り，憤怒)—airar (怒らせる)：airarse (立腹する)
riesgo (危険)—arriesgar (危険にさらす)：arriesgarse (危険をおかす)。
(「rr」にすることを忘れてはいけない)。

ab (分離，否定，過度を表す)
lactar (採乳する，乳で育てる) —ablactar (離乳する)
jurar (誓う，確信する) —abjurar (主義，信仰などを捨てる)
negación (拒否，否定，否認) —abnegación (自制，忍従)
rogar (願う，懇願する) —abrogar (廃棄する)
solución (溶解，分解；解決) —absolución (赦免，釈放)

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。国立国会図書館 2015年2月3日

ソルベール
sorber（吸う，吸収する，飲む）—absorber（吸いこむ，すっかり吸いあげる：夢中にする）
アブソルベール

ウさール
usar（使う，用いる）—abusar（悪用する，乱用する）
アブさール

アド
ad（近接，附加，意を強める，等に用いられる）。

フンたール
juntar（いっしょにする，合はせる，つなぐ，集める）—adjuntar（同封する）
アドフンたソル

ミニストらール
ministrar（つかさどる，給する）—administrar（管理する，経営する，与える）。
アドミニストらール

ヤセンテ
yacente（横たはっている，寝ている）—adyacente（近接している）
アドヤセンテ

アンテ
ante（時間的や空間的に「前」を意味する）。

アえール
ayer（昨日）—anteayer（一昨日）
アンテアえール

ブらーソ
brazo（腕）—autebrazo（前腕）
アンテブらーソ

アンチ
anti（反対，対抗，敵対を意味する）。

アルてィスチコ
artistico（芸術の，芸術的な）—antiartistico（非芸術的の）
アンチアルてィスチコ

アえレオ
aèreo（空気の，空中の）—antiaèreo（防空の）
アンチアえレオ

ろヒコ
lógico（筋道の正しい，論理的な）—antilógico（論理に合はない，矛盾した）
アンチろヒコ

イろヒコ
{ilógico は不合理な，不条理な}

アウト
auto（自身の，独自の，自分で動く，の意）

ビオグラふィーア
biografía（伝記）—autobiografía（自敍伝）
アウトビオグラふィーア

クリチカ
crítica（批評，批判）—autocrítica（自己批判）
アウトクリチカ

もッビル
móvil（動く機体）—autmóvil（自動車）
アウトもッビル

ビ
bi（二重性を意味する）

カルボなート
carbonato（炭酸）—bicarbonato（重炭酸）
ビカルボなート

プらーノ
plano（平面）—biplano（複葉飛行機）
ビプらーノ

ビス
bis（重，複，を意味する）。

ニえト
nieto（まご）—bisnieto（ひまご，曽孫）（biznieto も同じである）
ビスニえト

コ
co（共に，いっしょに，共通などの意）

エヅカシおン
educación（教育，しつけ）—coeducación（男女共学）
コエヅカシおン

エクシステンシア
existencia（実在，生存）—coexistencia（共存）
コエクシステンシア

オペらール
operar（手術する，動く，作用する，工作する）— cooperer（協力する，助力する
コオらアーペ

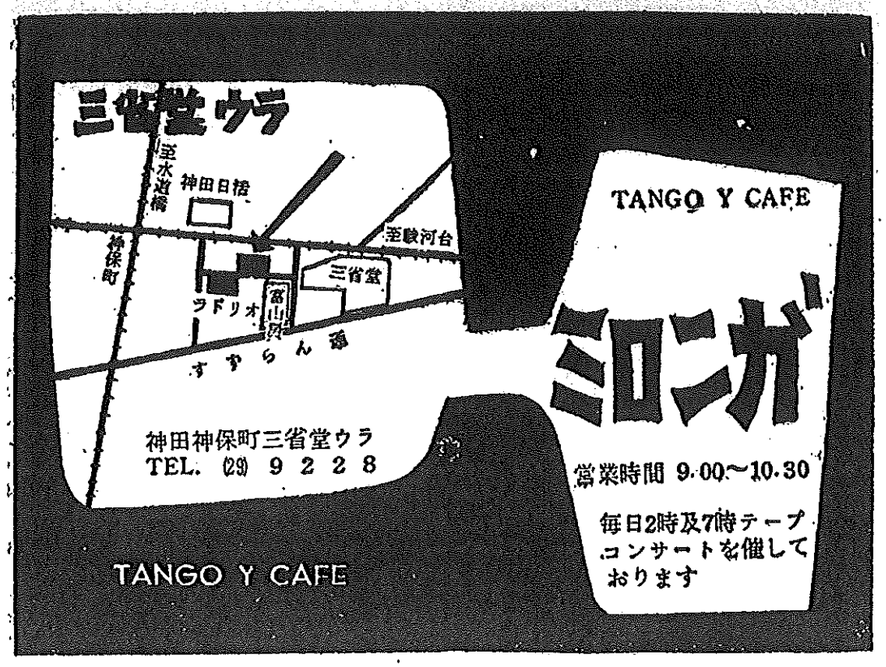
アクさード
acusads（被告，被疑者）—coacusado（共同被告）
コアクさード

コン
com（共同性を意味する）。

ポねール
poner（置く，つける）—componer（組みたてる，修繕する，作曲する）。
コンポねール

プロバシおン
probación（試験，立証）—comprobación（照会，証明：確認，認定）。
コンプロバシおン

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日



「中国米音楽」1959年 1月 (8)

スペイン語はこうして覚える

第八講

日本イスパニヤ語学会理事
拓殖大学講師　田中辰之助

訂正――前講の66頁10行目の reglamen r ario は reglamen t ario と r を t に，65頁の上から五行目の adjuntar の発音は「アドフンたール」に，下から六行目の cooper e r は cooper a r と e を a に，更に発音も「コオペらール」に，同じく下から四行目の acusad s は acusad o と s を o に，夫々御訂正を乞う。

さて続いて接頭辞の概要を説明して行かねばならない。

con（共に，とか一緒にとかの意）（要するに前提の com と同義で，b や p の前につく時は com と m を用い，其の他の場合には con と n を用いるのである。尚ほ後述の注意を読んで頂き度い。）為念 com と con との例を次に示して見よう。

beneficiado（宗教上の特点を受ける僧：収益の寄附を受ける人）
combeneficiado（寺院内の同役：共同に利益を受ける人）。
patriota（愛国者）（男女に使用される），
compatriota（同国人）（男女に共用する）。
discipulo（弟子：生徒），
condiscipulo（相弟子：同級生）。
vivir（住む，住んで居る），
convivir（いっしょに暮す，共同生活をする）。

注意：上記の例で見られる通り，b や p の前で m を用うる点は英語の場合と全く同じで，只 m の前に於てスペイン語は英語とちがって n を使用して居る。このことを知って置いて貰い度い。其の例を次に対照して示して見よう。

（英　　語）immediate（直接の；近接した），
（スペイン語）inmediato（直接の；すぐ続いた）。

（英　　語）immense（無限の；莫大な），
（スペイン語）inmenso（無限の；莫大な）。
（英　　語）immigration（移住；入国移民），
（スペイン語）inmigracion（移住；入国移民）。
（英　　語）imminent（切迫した；危急の），
（スペイン語）inminente（さし迫った；危急の）

まだまだ沢山例をあげ度いが，くどくなるのでこれ位にしておく。

contra（反対；対；副次的の意）。
atacar（攻撃する），
contraatacar（逆しうする）。
decir（言う；語る），
contradecir（反論する；矛盾したことを言う）。
hechura（製作；作った物），
contrahechura（偽造；偽造品）。
peso（重さ，目方），
contrapeso（おもり，分銅）。
seña（印，しるし，符号），
contraseña（合符号；添印；合い札）。

de（下落や反対を意味する）
preciar（評価する；高く見積る），
depreciar（値段をさげる）。
sabor（味，あじわい），
desabor（無味，まずさ）。
crescendo（漸強音；だんだんに強く），
decrescendo（漸弱音；だんだんとかすかに）。

des（否定や反対を意味する）。
abastecer（供給する，補給する），
desabastecer（供給を断つ）。
abotonar（ボタンをかける），
desabotonar（ボタンをはづす）。
conocimiento（認識；知覚），
desconocimiento（無記憶；無観念；否認）。

dis（否定や反対の意）

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

二)。

この作曲家の作品を録音した、最初のLPとみられている。

★ **Giannere, Luis.**

ヒアンネロは、一八九七年に生れたアルゼンチンの作曲家であって、ハイト及びドランゴッシュについて学んだ。一九二三年にトゥクマンに居住し、そこで音楽を教えると共に交響楽協会の演奏会を指揮している、彼は一九三二年から一九四四年迄「グルッポ・リノヴァシオン」の一員であった。作曲家としては郷土のフォクローレを育成していて、彼の和声的な取扱いはトーナルを基本としていて、そう苦労しないでまとめている。彼は交響詩、アイマラ・インディアンの主題によるヴァイオリン協奏曲（アイマラ協奏曲と称される）など創作していて、右の協奏曲は一九四二年に最善のヴァイオリン協奏曲としてフライシャー賞の第二位を獲得した。ハイドンへ捧げられた「シンフォニエッタ」は、一九四三年にブエノス・アイレスで上演された。ヒンネロは多くの珍曲、ピアノ曲、室内楽曲子供のためのピアノ曲など創作している。アルゼンチンのメロディでガウチョ様式で考想された、ピアノ用「パンペアナとコプラス」は出版されている。

バンディニはヒンネオの管絃楽曲「アイマラ舞曲」をアルゼンチン放送局管絃楽用と録音（オデオンLDC—五一二）し、バンドネオン奏者のA・パルレッタは「サパテアード」、「クエナス」、「ペリコン」及び「バイレシト」の四曲を録音（SMC—五四七）、ヒンネオは一九三一年に創作した管絃楽曲「エル・タルコ・エン・フィオル」をパンパに録音したのがある（LRC—一五五〇二）。

★ **Gil, Jose.**

一八八六年にスペインで生れ、幼い時にアルゼンチンへ移住した。アルベルトー・ウィリアムスについて学び、卒業後は作曲と教授につとめている。彼はブエノス・アイレスの国立音楽院で和声と対位法の教授である。

ヒルは伝統的なアカデミックな様式で、いくつかの室内楽曲を書いている。郷土の手法では、ピアノ用「アルゼンチン舞曲」と絃楽四重奏曲を作曲している。

彼の作品は前に述べたボエロのLPに組合されているといわれるが、詳しいことは判っていない。

ねこ

—その歴史・習性・人間との関係—

魔性をそなえた奇怪な行動をする動物の本体は？

ねこの話題について興味豊かな書……ネコに関する古今東西の文献を漁って書かれた興味の尽つきない話題の書。

木村喜久弥著

B6判・美装・上製

350円

法政大学出版局刊

gust（ぐスト）（味；好み；喜び），
disgust（ディスぐスト）（不味；不快）。
conformidad（コンフォルミだー）（相似；一致；均斉），
disconformidad（ディスコンフォルミだー）（不一致；不服）。

em, en（エン エン）（動詞を作くる）（em は b や p の前に用うることは com と同様）
embarcar（エンバルかール）（船や汽車に乗せる）。
embotellar（エンボテリャール）（びんに詰める）（botella（ボてリャ）はびんのこと）。
empapelar（エンパペらール）（紙を張る）（papel（パペール）は紙）。
encajonar（エンカホなール）（箱に入れる）（cajón（カヒン）は箱）。
enfriar（エンフリあール）（つめたくする）（frio（フリーオ）つめたい）。

entre（えントレ）（中間とか半分などの意）
ancho（あンチョ）（広い），
entreancho（エントレあンチョ）（やや広い，中巾の）。
meter（メてール）（入れる，さしこむ），
entremeter（エントレメてール）（間に入れる，さしはさむ）。

im, in（イン イン）（‥‥の中に；或は，否定的な意味）（im は b や p の前で用うることは com の場合と同様と知られ度し）
corporación（コルポラシおン）（団体），
incorporación（インコルポラシおン）（合体，編入；結社）。
perfecto（ペルふエクト）（完全な），
imperfecto（インペルふェクト）（不完全な）。
mortal（モルたール）（死すべき運命の），
inmortal（インモルたール）（不死の；不朽の）。（英語では immortal となるが，スペイン語では inmortal，前述の注意の項参照され度し）。
variable（バリあーブレ）（変り易い，不安定の），
invariable（インバリあーブレ）（不変な，一定の）。

inter（インテル）（間，中間，相互の意味）
poner（ポねール）（置く，つける），
interponer（インテルポねール）（間に入れる，さしはさむ）。
paginar（パヒなール）（頁数をつける），
interpaginar（インテルパヒなール）（頁の間に挿入する）。
cambio（カンびオ）（変化；交換），
intercambio（インテルカンびオ）（相互交換）。
penetración（ペネトラシおン）（滲入）。
interpenetración（インテルペネトラシおン）（相互的な浸透）。

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

「中南米音楽」1959年2月号（9）

スペイン語はこうして覚える

第 9 講

日本イスパニヤ語学会理事
拓殖大学講師　田中辰之助

接頭辞の説明が案外にながびいたので，退屈に思われるかも知れないが，スペイン語の単語を少しでも多く知っておくには便利なことだと思うから更にこれを続けてゆくことにする。そして今度は一歩前進して対照的な接頭辞を並べて習得の便に供しよう。

mon，及び mono（モノ）—（単一を意味する）。

これと同類のものに uni-（ウニ）があり，反対に対照的なものには：bi-（ビ）（二とか複とかの意）；tri-（ツリ）（三を意味する）；cuadri-（クあドリ）（四を意味する）；multi-（ムルチ）（多数を意味する）及び poli-（ポリ）（多数の意）等がある。

次にその例を示そう：

monarquía（モナルきーア）（君主政治：君主国）
poliarquía（ポリアルさーア）（多頭政治）
monociclo（モノしックロ）（一輪車）
biciclo（ビしックロ）（二輪車）
triciclo（ツリしックロ）
cuadriciclo（クアドリしックロ）
monopláno（モノプらーノ）（単葉飛行機）
biplano（ビプらーノ）（複葉機）
monogamia（モノガーミア）（一夫一婦）
poligamia（ポリガーミア）（一夫多妻）
poliandria（ポリあンドリア）（一妻多夫）

monocromo（モノクろーモ）（単色の，一色の）
bicromía（ビクロみーア）（二色版）
tricromía（トリクロみーア）（三色ずり）
policromo（ポリクろーモ）（多色刷りの）
monócuro（モのックロ）（片眼鏡）
binóculo（ビのックロ）（双眼鏡）
monoteísmo（モノテいッスモ）（一神論）
politeísmo（ポリテいッスモ）（多神論：多神教）
unitarismo（ウニタリスモ）（唯一神教；統一派）

multi—（ムルチ）（多数を意味する）（上述の説明を参照されたし）
multicolor（ムルチコろール）（多色の，多彩の）
unicolor（ウニコろール）（単色の）
multicopiadora（ムルチコピアどーラ）（謄写器）（copiadora（コピアどーラ）—謄写器）（尚，謄写器のスペイン語には mimeógrafo（ミメおグラフォ），mimeóprenta（ミメおプレンタ），policopia（ポリコピア）等がある）
multiforme（ムルチふォルメ）（多形の，多様の）
uniforme（ウニふォルメ）（同形の，一律の）
尚，次の単語はその綴りと意味とを注意して欲しい！
multilátero（ムルチらッテロ）（多辺の，多面の）
unilateral（ウニラテらール）（一方的な）
（latero（らてーロ）—名詞の意味はブリキ屋，形容詞の意味はウルサイ。lateral—側面の）。

neo（ネオ）—（新を意味する）
neorromanticismo（ネオロマンティしスモ）（新ローマン主義）（romanticismo（ロマンティしスモ）の初頭の r は強い音で発音されるべきことは既に承知されている筈で，従って neo と結合する際には rr と綴らねばならぬことも承知されている筈だ）。

noct-，及び nocti-，—（夜を意味する）。
noctambular（ノクタンブらール）（夜歩きする）（ambular（アンブらール）—放浪する）
noctivago（ノクチばーゴ）（徘夜放浪的な）（vago（ばーゴ）—放浪的な：漠然とした）
noctiluco（ノクチるーコ）（夜光性の）（lucir（るしール）—光る，輝く）
nocturno（ノクつルノ）（夜間の）（clase（クらーセ） nocturna（ノクつルナ）—夜学）—{diurno（ディうルノ）（昼間の）}

o-，及び of-，—（反対，抵抗，隠蔽等を表わす）。

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

ポネール
poner（置く）
オポネール
oponer（対抗する）（対抗物を置く）
プロポネール
proponer（提案する）
プレポネール
preponer（前に置く）
スポネール
suponer（仮定する，推測する）
コンポネール
componer（組みたてる；調合する；修理する）
レポネール
reponer（補充する；引きもどす；返答する）
ディスポネール
disponer（配置する；整える，準備する）

上記の例で接頭辞が poner の意味を色々に変えてゆく味を習得していただきたい。尚，もう一つ例を示して見よう。

テネール
tener（持って居る）
オブテネール
obtener（手に入れる）
コンテネール
contener（包蔵する，含む；抑制する）
デテネール
detener（引きとめる，抑える）
エントレテネール
entretener（楽しませる）
レテネール
retener（手もとに置く，止めて置く）
ソステネール
sostener（支持する；支援する；維持する）

オクタ　オクト
octa-，octo- ―（八を意味する）。
オクタゴなール
octagonal（八角の）

オルト
ortd- ―（直とか正の意）。
オルトゴなール
ortogonal（直角の，矩形の）
オルトどクシヤ
ortodoxia（正教；正統派）

オビ　オボ
ovi-，及び ovo- ―（卵の意）
オビふォルメ
oviforme（卵形の）

オクス
ox- ―（酸を意味する）。
オクソシド
oxacido（蓚酸）

パン
pan- ―（汎，全の意）。
パナメリカにスモ
panamericanismo（全米主義，汎米運動）

パラ
para- ―（防護の意を持つ）。

パらーグアス
paraguas（雨傘）（aguas―雨）
パラそール
parasol（日傘）（sol―太陽）
パららーヨス
pararrayos（避雷針）
パラカいーダ　カいーダ
paracaídas（落下傘）（caída―落下）

ペル
per- ―（意味を強化したり，または逆の意に用いられる）。
クロらート
clorato（塩素酸塩）
ペルクロらート
perclorato（過塩素酸塩）
ヅらーブレ
durable（持ちのよい，永続きする）

perdurable（永持ちのする；不朽の）
イるストレ
ilustre（著名な）
ペリ　ストレ
perilustre（極めて有名な）
フらール
jurar（誓う，確言する）
ペルフらール
perjurar（偽誓する）

ペリ
peri- ―（周囲を意味する）
ペリかルピオ
pericarpio（果実の果皮）
ペリフォネあール
perifonear（ラジオで放送する）
ペリフラセあール
perifrasear（まわりくどくいう）

新装拡張開店によりタンゴファンの皆さまから
再生装置や音楽効果
タンゴ専門店としての雰囲気などに
ついてご好評をいただいております。
アルゼンチンより空輸で本邦未発売
ＬＰ入荷
タンゴ喫茶　ら　ん
池袋文芸座入口　TEL (97) 0782

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。　国立国会図書館　2015年2月3日

「中南米音楽」1959年4月号 (10)

スペイン語はこうして覚える

第 10 講

日本イスパニヤ語学会理事
拓殖大学講師　田中辰之助

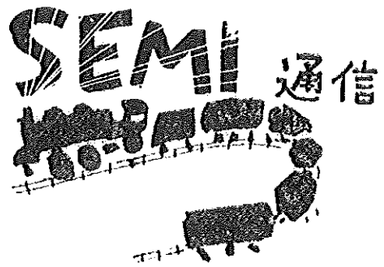
本講も此の第10講を以て一時中止することになったので，今日は前講の続きを書き進めるのを中止して，本講に対して筆者が抱いていた構想や，読者諸氏が今後更に独習を続けられようとする心構に対してのヒントなどを申し述べて，今日迄辛棒強く本講を読んで下さった方々へのお礼の辞に代えたり，講義の中断によって不得要領に終ろうとする不結果に対しての御詫の辞に致し度いと思う。

元来講義の一般的慣例の進め方は，先ず一つ一つの単語を其の性質即ち意味の上からこれを区分して，名詞とか形容詞とか副詞とか或は動詞とかと文法上の用語たる名称を示し，そして其の用途即ち文中における配列の位置を説いたり，更に同じ一つの単語でも文中に於ける所在の位置に従って主語であるとか，補語であるとかと解説を行うのが普通的在来型の講義である。そして此の文法上の名称を用いて各種各様の文の構成なり解読なりを公式的に説明するのが所謂文法なのである。

そうした型式即ち文法の講義も第何講と回を重ねれば，かなり進んだ域に達するかも知れないが，それを本講では今日迄少しも手を触れずに即ち文法の用語さえも示さずに専ら単語の習得一辺倒に終始して来てしまったが，それは一体どうした理由に基いたものであったか。今ここに本講を一応中断する事と相成った以上，筆者は其の理由を明かにして置かねばならぬ責任を感ずる次第である。そこで本講に対して筆者が抱いて居た構想を次に述ぶることとする。

御承知のように，言葉それは文字の姿であろうと音声の形であろうと一は各自の意慾なり思想なりを表現する道具であって，其の第一要素は何といっても単語そのものである。単語を知らずして言葉の使用が可能であり得よう筈もなく，単語を解せずして言葉の理解がなし得られよう筈もない。何故ならば言葉は単語の集積だからである。

元来単語はそれ自体自然と備わった妙味と力を保存しているものである。従って完全な言葉即ち文体形の表現にたよらなくとも，単語の使用それだけにして意思の表現が充分に果し得る実例が数々ある。其の尤も手近なものに，「お早う」



▽新潟支部△

陽春四月の定例コンサート（第一二三回）は会場の都合で第二土曜日とし，十一日に県立図書館映写室で開催した，当日は折悪しく季節外れの暴風雨の為ファンの数も少く十数名のみであった。

タンゴの部では「ブエノスの郷愁」と題し，J・ダリエンソの新譜から「ラ・カレシタ」「フリエ」「シ・ソイ・アシ」を「エル・アコモード」「エル・チョクロ」「カミニート」「エル・インテルナード」等をそれぞれE・ドナート，J・カンバレリ，M・カロ，R・フィルポで聞き，唄のものでは「ムチャーチョ」「マノ・ア・マノ」をA・ヴァルガス，J・ヴィダルで聞いた。総じて今回のプログは全十二曲，ポピュラーなもので終始したと思う。担当　星　孝明

ラテンものは〻そよ風と共に〻と題し，ナカヨネ・ナンペイ氏の解説でチリー音楽から始まる「エル・ロデオ」「赤いコピッエの花」「クエカ万才」をラウル・ガルディ，シルヴィア兄弟，シルヴィア・インファンタスで聞き，二人の為のシリーズは「パパルー」と「口笛のチャチャチャ」の二曲であった。この外今回は久し振りにラファエル・ムニョスのもので「乙女の言葉」と「くちなしの香り」を聞き最後はP・プラドのマンボ「アデオス・ミ・チャパリータ」でその幕を閉じたやはりR・ムニョスの甘いもの，それに景気の良いプラドに人気が集中した。

次回第一二四回の定例コンサートは第一土曜日がゴールデン・ウィークに当る為，五月九日に変更し県立図書館映写室で開催の予定

なほ四月一日市公会堂でフラメンコ・ギターのカルロス・モントヤの公演があり彼の素晴しい神技は当日の聴衆を魅了した。

連絡先　新潟市上所島一，一三四菅野気付
福田　升一

▽静岡支部△

桜の花も咲き始めた弥生三月，静岡支部の定例コンサートは二十一日夜，スミヤ・ホールにて行われた。気候はよく，折柄の二日続きの休日とあって聴衆の出足はあまり芳ばしくなかったが，第一部フリオ・デ・カロ特集（「アエバル・トロイロ」，「ブエン・アミーゴ」，「マーラ・ピンタ」等七曲）に始まって第二部のメキシコ民謡集（「古い恋」，「美しき空」，「ハラパの月夜」等六曲）第三部懐しのSP盤集（「七月九日」，「さようならも言わないで」等五曲）まで，二時間あまりをたのしく過した。四月は当世三大マエストロを特集してディ・サルリ，カナロ，ダリエンソの競演などポピュラーなものを集めてプログに組み，四月十八日に同じスミヤ・ホールにて行う。又，市制施行七十周年の記念行事と恒例の静岡祭ににぎわう四月二日，小薬照男氏

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ，掲載・配信等ができない場合があります。　国立国会図書館　2015年2月3日

とか「今日は」とかいった挨拶の言葉がある。更に単語だけの表現によって一層味と力とを感ずるものに，赤ン坊の「おっぱい」とか「お乳」とかの言葉があるし，また子供の「お菓子」とか，大人の「お酒」とかと口から出る単語がある。これ等の表現を若しも頂戴とか下さいとかの単語をつけ加えて完全な文体形にしてしまったならば，其の表現は一度に味と力とを滅殺してしまう。こうした実例を挙げれば数限りがないけれども，此の二三の実例で単語の妙味と力とを知って欲しい。

スペイン語も言葉以外の何物でもない。して見れば上述のような事例は同じように数々ある。従ってスペイン語を学び，スペイン語を解し，スペイン語を使用し度いと希望するならば，其の言葉の第一要素たるスペイン語の単語を先ず覚えずして何とする。

筆者が単語の習得に重きを置いて来たのも此の故であった。今仮りに前述のお菓子なりお酒なりの慾求を表現する言葉の解説を，文法優先の講義に従えば，「お菓子を頂戴」とか「お酒を呉れ」とかと完全な文体形言葉に整えてから之を行うのである。最初に述べた通り先ず単語の区分から始めて，お菓子は名詞で且つ普通名詞に属するものであり，お酒は名詞でも物質名詞に属するものであるとし，次に頂戴とか呉れとかは動作を表わす詞で従つて動詞であり，且つ其の動作を補足説明する為に「何を」と云う詞を必要とするから此の動詞は他動詞に属するものであると説く。そうした後に，さきに名詞であると説明した「お菓子」や「お酒」を文即ち言葉の構成上からは動詞の補語（或は目的格）であると解説するのである。これ等の名詞とか，其の細分した普通名詞とか物質名詞とか，更に動詞，他動詞，並に補語とかいった名称は勿論覚えねばならぬ名称である。何故ならばやがてスペイン語の構成に関する公式的説明の際に使用される名称であるからだ。

今，初学者が「お菓子」なり，「お酒」なりの慾求を表現し度いと思う時に，其の第一要素として必要なものは「菓子」とか「酒」とか云う単語である。やがて説明に使用されるべき公式上の複雑な名称等ではない。「菓子」或は「酒」の単語の使用によって意思の表現が出来ることは前述の通りである。して見れば先ず其の単語を覚えることが先決ではあるまいか。言葉の勉学の早道は易きについて，それを反覆練習して身につけることだ。そうして言葉になじみを得れば，道は自然に開けて来るしかも楽な道として。

言葉の学修は数学的な理論に基いて行わるべきものではなく，反射的練習の蓄積によってなさるべきものであるとは筆者が常に抱いている持論である。それは我々日本人とスペイン語国の人々との間には，物の観方，感覚，表現等に理外の理の幾多の差異が存在していることを体験しているが為である。例えば食事の時を一例にあげて見ても，我々日本人は茶碗と箸と米とを連想している時に，彼等はナイフとフォークとパンと肉とを連想して居る。更に我々が「御馳走が出た」

と言う時，彼等は「御馳走が来た」と言う。正に正反対の表現ではあるが，考えて見れば理論的に彼等の表現の方が正しい。だが然し我々は其の正しい筈の表現よりも，口になじんだ「出た」と云う表現の方が正当な事のように自然の姿として使用して居る。なじむと云う事の力強さはこうした一例でもよく理解出来る。

スペイン語になじむとは，スペイン語を反射的に一つまり理論を抜きに只繰返し練習を重ねることだ。其の反覆練習こそスペイン語になじませて呉れる要素であって，なじんでこそスペイン語らしいスペイン語の使用が可能となるものなのである。それにしても単語の智識なしでは言葉と云うものの理解が得られない。従って先ず単語の習得に力を注ぐよう読者諸氏にお薦めする。

殊に本誌の読者のように音楽を愛好さるる方々は，歌詞の解読を重点としてスペイン語の学修をなさるるものと解するが故に，筆者は一層強く単語の習得をお薦めする。何故ならば，スペイン語の音楽歌詞＝民謡ならば其の国々や地方々々の方言も混入して居るは其の音節の数や句末の語尾の音調を調整する関係上，文の構成が往々にして普通の文法規則に従った姿とはかけ離れた組み立てになっている場合が多い。従って半可通の文法知識を以て歌詞の読訳をしようと試みれば，却って疑惑と混迷とに陥るのが関の山で，寧ろそれよりも其の文中に拾う単語の適訳を求めての其の綜合意訳から全文の意味を忖度した方が効果的な意訳をつかみ得る場合が多いからである。単語の持つ力と味とは捨て難いもので，其の効果の良否は利用の可否にかかっているものである。

筆者は本講に題して「スペイン語はこうして覚える」と命名した。スペイン語を覚えて頂く第一歩として単語の覚え方を示そうと努力した。それは既に述べた通り言葉の第一要素は単語であるからだ。が然し単語の数は尨大なものである。従って未だに第一歩の仕事は終っていない。そして今や本講を中断することとなった。詮ないことだ。読者に対して申し訳ないこととは思ってはいるが，唯御諒承を乞うのほかはない，そこで折角スペイン語を学修なさろうとした読者の為に文法と云うもの，勉強に対する心構をお話して置こう。何故ならば，単語の要を力説する筆者と雖も決して文法を軽視している者ではなく，否，文法は言葉に対する極めて便利な指針であると信じている者であるからだ。

文法は初学者にとって，最初は好奇的魅力なものであり，中頃に退屈で厄介なものであり，しまいには捨て，顧みようともしないものである。蓋し文法を学ぶ心構つまり学ぼうとする文法なるもの，真意を理解していないその為であろう。文法は言葉の組立を解説する指針である。丁度家を建てる時の大工の図面である。家は図面に従って先ず棟上げをし，家の姿を造る。細かい附帯工事はそれから後に続く。大工は必ず此の順序を踏んで仕事を進める。文法を学ばんとする初学者は正に此の態度をとらなければいけない。言葉の基本的体形一即ち姿を先ず理解することに努め，附帯的特種事項は順を追うて学べばよい。それを往々にして全体の姿を眺めないうちに特種的な細目に踏み入って視界を失うが為にいや気

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。 国立国会図書館 2015年2月3日

螢の光（ボレロ）　ガイ・ロンバート

A列車で行こう（ガラーチャ）　デューク・エリントン

リズムの芸術　スタン・ケントン

ブエルト・リコのセザール・コンセプションがアメリカの一流バンドのテーマ・ミュージックをラテン・リズムにアレンジして演奏したもので、ラテン・ファンにもジャズ・ファンにも楽しめるレコードです。

お馴染クガートの「マイ・ショウル」で始まりますが、このトランペットは次に出てくるハリー・ジェームス張りで「チリビリビン」では大いにイミって吹きまくります。ハリー程の巾はありませんがなめらかな音をよく出し軽快なマンボのリズムを打ち出しています。

グレン・ミラーの「ムーンライト・セレナーデ」、ジャズ・ファンはもとより伝記映画で広く親しまれた曲ですが、スローなボレロに編曲、メロディックになりすぎてダイナミックな美しさが失われています。

「ラプソディー・イン・ブルー」「ワン・オクロック・ジャンプ」「レッツ・ダンス」など親しみ深い曲が続々とあらわれますが、共通して受ける編曲の感じは、マンボなりボレロなりのリズムに寄りかかった形でメロディーの変化がお粗末です。

あまり自分のペースに持ち込んだため冒険がないので面白味が少なく、テーマとして各楽団の演奏する際の魅力の輝きが失われてしまいました。テーマ集という一寸野心的な試み丈に惜しいと思います。（深沢　旬）

★アティリオ・スタムポーネが今自分のオルケスタのリーダーである以前に、ロベルト・ディマス、ペドロ・マフィア、アストル・ピアソラそしてエドアルド・ビアンコのオルケスタで活躍していたのです。

★現在、カルロス・ディ・サルリの専属歌手であるオラシオ・カサレスがタンゴ界に第一歩を踏み出したのが〝クワルテート・ロス・アセス〟で、そこからエンリケ・バルディのオルケスタに、ついで〝シムボル〟オスマル・マデルナのオルケスタに移ったのです。

ボルテニヤ音楽同好会　会員募集

当会は東京在住のファンのための、伝統と権威を備えた純粋なタンゴ愛好者団体です。主としてレコード・コンサートによってタンゴを楽しみながら、同好の皆様が親睦をすすめ、タンゴの味わいを更に深めていただくことを目標に着実なあゆみを続けております。

豊かな内容の定例コンサートはおなじみの高山正彦氏のユーモアに溢れたしかも懇切な解説ですすめられ、独特の魅力的な雰囲気は、その水準とともに全国のタンゴ愛好家の羨望の的となっています。

毎月の定例コンサート（会員無料）のほか珍しいレコードを聴く特別コンサートや茶話会、親睦会等を開催し、機関紙〝アルゼンチン・タンゴ〟を会員無料で配布しています。

入会金は百円、会費一ヵ月五十円（三ヵ月前納）です。詳細は案内書をごらん下さい。

案内書は左記へ八円切手同封の上ご連絡下さい。早速お送りいたします。

東京都台東区金杉一ノ四
大岩祥浩方
ボルテニヤ音楽同好会

を催してしまうのである。心すべきことだ。

さて家を造るには材料が要る。其の材料は言葉の場合には単語なのである。家の図面が土台や柱等の位置を示して呉れるように，文法は主語や動詞等の位置を指定して呉れる。それから仕事，つまり動作の経過に関しては「時」と云う観念を持つ表現の仕方を文法は教えて呉れる。即ち現在，未来，過去，完了形，或は進行形と云う語を用いて説明してあるのがそれなのである。若し此の規定つまり文法が無かったなら，次のような日本語をどのように取扱うてよいか大に悩み抜くことであろう。仕事しよう，仕事する，仕事した，仕事していた，仕事したものだ，仕事してしまった，仕事したことがある，仕事してしまっていた，等。

更にまた文法と云うものは，表現された言葉の内容性質を分析して，内容に応じた夫々の名称，即ち直接法とか命令法とか接続法とかの名称を規定して，表現された言葉の取扱に役立たせている。例えば，

仕事している，仕事しなさい，仕事して欲しい，仕事するかも知れない，仕事したからといって　等。

本講では余り詳細に説明している余裕が無いので残念ではあるが，要するに文法と云うものは便利に利用出来るようにしてあるものだから，附帯的細目は第二とし，先ず言葉の姿を知る大綱を一と通り是非学ぶようにしなければいけない。家を建る時の大工の態度にならうことを忘れないようにもう一度お薦めして置く。

東京産経学園

スペイン語教室　＝四月開講＝

〝私の耳に残っているもの〟でお馴染みの植田竜夫氏がスペイン語講座を持たれます。

記

▽講習期間　六ヵ月　第三期生　四月～九月
▽講　　師　木曜日　午後六時～八時
▽講　　師　元東京商工会議所　共栄貿易株式会社専務取締役　植田竜夫
▽教　　材　プリントによる（実費　百五十円）
▽講　習　料　六ヵ月分　四千円　（申込金　五百円）
▽申　込　み　所定の用紙に記入の上、申込金と講習料を添え申込んで下さい定員になり次第締切ります

学園長　村岡花子
理事長　前田久吉

東京都千代田区大手町　産経会館六階
公認　東京産経学園
電話（23）一五七一、三二七一

著作権法に基づき提供された複写物です。著作権者等の許諾がなければ、掲載・配信等ができない場合があります。　国立国会図書館　2015年2月3日